

## 県立高等学校教育課程課題研究（地理歴史，公民）

令和4年度から実施される新学習指導要領では、地理歴史科と公民科において科目構成が大幅に変更され、「歴史総合」などの新科目も設置されることとなり、授業作りの手法も従前のものから大きく変わるものとなった。そこで本研究では「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう「思考を活性する発問の在り方」と「資料の効果的な提示」に着目し、新しい学習指導要領に基づく授業の在り方を追究してきた。地理歴史科、公民科の各科目において単元での実践例を開発し、授業実践例を示すことができた。また、授業実践開発に加え、より地理歴史科、公民科の学びの本質に近づけられるようなオンライン学習支援コンテンツも作成した。

<検索用キーワード> 新学習指導要領 地理歴史科 公民科 思考を活性する発問  
資料の効果的な提示 オンライン学習支援コンテンツ

### 運営委員長

県立東浦高等学校校長 蟹江 吉弘（令和2年度）

### 運営副委員長

県立岡崎西高等学校教頭 白井 雅彦（令和2年度）

県立鳴海高等学校教頭 平川 竜也（令和2年度）

### 運営委員

高等学校教育課指導主事 猪俣 直樹（令和2年度）

総合教育センター研究指導主事 加藤 雅英（令和2年度主務者）

### 研究員

県立旭丘高等学校教諭 横銭 淳一（令和2年度）

県立旭野高等学校教諭 三宅 孝司（令和2年度）

県立長久手高等学校教諭 犬飼 大介（令和2年度）

県立犬山高等学校教諭 林 和宏（令和2年度）

県立横須賀高等学校教諭 白河 格（令和2年度）

県立大府高等学校教諭 相原 正（令和2年度）

県立豊田高等学校教諭 橋本 泰介（令和2年度）

県立足助高等学校教諭 角谷 彰彦（令和2年度）

県立岡崎高等学校教諭 鈴木 俊喬（令和2年度）

県立幸田高等学校教諭 松坂 和俊（令和2年度）

県立刈谷高等学校教諭 遠藤 慎也（令和2年度）

県立安城高等学校教諭 稲吉 徹（令和2年度）

県立西尾高等学校教諭 山崎 理恵（令和2年度）

県立知立高等学校教諭 田中 見佳（令和2年度）

## 1 はじめに

平成30年に公示され、令和4年度から学年進行で実施される新学習指導要領は、前例にない大きな変化を示すものとなっている。とりわけ高等学校地理歴史科においては、「歴史総合」などの新科目も設置されるなど科目構成も大幅に変更され、授業づくりの手法においても従前の手法とは異なる発

想が求められるようになった。新学習指導要領では授業をつくる際には、目の前にいる生徒の伸ばしたい「資質・能力」を見定め、そのために「何を」「どのように」学ばせればよいのかを考えねばならない。そして「どのよう」学ぶかに関しては、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。このように、授業づくりのレベルにおいても大きな変革の時を迎えており、特に地理歴史、公民科では授業のつくり方を根本から見直す必要に迫られているといえる。そのような状況の中、県立高等学校教育課程課題研究・地理歴史科、公民科班では、昨年度より以下の2点に着目し、新学習指導要領に基づく授業の在り方を追究してきた。1点目は「思考を活性化する発問の在り方」についてである。本研究では、発問の手法について考え、単元での実践例を開発し協議を重ねてきた。2点目は「資料の効果的な提示」である。「思考を活性化する発問」が有効性をもつためには、その選択・判断の材料になるような資料の提示が求められる。本研究では、具体的な授業実践とともに発問が効果的に生きてくるような資料の提示を求めた。

また、今回は上記の実践開発の発表に加え、オンライン学習支援コンテンツも作成した。令和2年2月に休業措置が内閣より要請され、愛知県においても5月31日まで学校の臨時休業措置がなされた。その間、各学校においては休業期間中の生徒の学習を保障するために、さまざまな対応策がなされた。中でも、インターネットを用いたオンラインによる学習支援を目的としたコンテンツが多くの教員によって開発され、実際に自宅でインターネット環境が整っていた生徒はそのコンテンツに接続して学習を進めてきた。このような状況を受け、今年度の第1回研究会では、オンライン学習支援コンテンツを作成し、作成したコンテンツがより地理歴史科、公民科の学びの本質に近づけられるように協議を進めた。

## 2 研究の目的

新学習指導要領の趣旨を踏まえた地理歴史科、公民科の授業の在り方を追究し、その成果を県内の高等学校に向けて発信することを目的とする。また、オンライン学習支援コンテンツを開発し、文部科学省の提唱する「新しい教育様式」を構想する際のヒントとなるよう、県内の高等学校に向けて発信する。

## 3 研究の方法

### (1) 授業実践開発班

深い学びに結びつく「発問」を考察し、また「発問」が有効に生かされる「資料」を用いて、各研究員がそれぞれの所属校で授業実践を行う。「発問」については、研究員に、次の「4つの発問」を例示し、単元を構想する際の参考となるように示した(※)。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ① 前提を疑う発問    | ② 教科書を検討させる発問 |
| ③ 情報を意味付ける発問 | ④ 意味を考えさせる発問  |

なお、今回の発表の科目については、日本史A、世界史B、地理B、現代社会、倫理とした。

### (2) オンライン学習支援コンテンツ開発班

休業期間中に作成し実践したコンテンツを研究会で協議検討した。また、オンライン学習支援コンテンツを作成しなかった学校については、新たに作成し、可能であれば休業期間が終わった後に実践するように依頼した。

## 4 研究の内容

### (1) 授業実践開発班

#### ア 地理B 単元「現代世界の諸地域 ロシア」

本単元では「地球温暖化がロシアにどのような影響を与えるか?」という発問がなされている。この発問は、「4つの発問」の「①前提を疑う発問」にあたる。つまり、発問に対する回答として地球環境に与える影響を前提に考えると、氷床海氷の縮小というようなデメリットについての影響が挙げられる。しかし、「果たして本当にそのようなデメリットだけだろうか」と問うことによって、「北極海航路が開発され、船舶の運航が可能になる」というロシアにとっての地政学的なメリットについて気付けるように授業が展開されている。地球温暖化の影響と問われれば、地球環境へのマイナス要因などデメリットが挙げられがちだが、前提を変えて考えることで生徒にとっては自明の通念が揺さぶられることとなり、この気づきがより深い学びへと結びつく。

#### イ 現代社会 単元「地方自治と住民の福祉」

地方自治の組織と地方財政について基本的な理解と地方自治の課題について理解し、「大府市、刈谷市、東浦町の市税・町税は増えたか。資料から読み取ったことを根拠として説明しよう」という発問をする。この発問は、「4つの発問」の「③情報を意味づける発問」にあたり、生徒は資料を用いて合理的な理由を挙げて3つ市町村の税収を説明することが求められる。

#### ウ 倫理 単元「日本人としての自覚（日本思想）」

本実践では、単元を貫く問いを「日本人としてよりよく生きるとは、どのように考え、どう行動していくことなのか」と設定し、それに基づいて第1次から第5次まで、それぞれに発問が設定されている。第1次から第4次においては、各グループで思想家やその思想について調べ、クラス全体で発表するように計画されている。その際に、思想と関連付けた身近な事柄で生徒自身が「問い」を立て、クラス全体の協議や個人の振り返り活動を通して各時間の発問に迫り、その積み重ねによって単元を貫く問いに答える単元構想となっている。

#### エ 日本史A 単元「第一次世界大戦と日本」

本実践では、教科書や資料集にある大戦景気に関する複数の資料を提示し、そこから大戦景気の実態を読み取り、経済や社会に与えた影響について考察させることを目的としている。「大戦景気が日本の経済や社会にどのような影響を与えたか、複数の資料を基に考察してみよう」という問いを投げかけ、考察の根拠を複数の資料から考えさせるようにした。

#### オ 世界史B 単元「百年戦争 14～15世紀の西ヨーロッパにおける中央集権化」

本実践では、単元を貫く問いを「百年戦争から読み取れる、中世から近世への変化はどのようなものであったか」と設定した。5種類の日本の教科書とヨーロッパの教科書の百年戦争に関する記述を資料として用い、それらを比較することによって歴史叙述における視点の設定の違いがいかに重要かを気付かせるようにしている。

#### カ 現代社会 単元「消費者問題と消費者主権 ～自立した消費者になるために～」

本単元は現代の消費者問題を理解し、自立した消費者としての自覚を高めることを目標としている。悪質商法について説明した資料や、環境保全に配慮した商品とそうではない商品の実物資料を比較するなどし、第5次において「自立した消費者としてどのようにあるべきか」という発問を生徒に行う。自立した消費者はどのようにあるべきかという価値育成を、問いと資料によって導くようにしている。

### (2) オンライン学習支援コンテンツ開発班

オンライン学習支援コンテンツについて、研究員が作成したものを次のように類型化した。

#### ア 授業の代替を目的としたもの

休業期間中に行われた実践で、授業の内容をオンラインで学習させることを目的とする。YouTubeなどの動画配信サイトに、パワーポイントやビデオエディターなどを用いて作成した講義動画をアップロードし、生徒がアクセスして視聴しながら学習をする。

#### イ 授業内容の補足を目的としたもの

授業内容について、通常の時間では深く触れることが困難な内容について、動画でより詳細に解説することを目的として作成されたものである。単に解説にとどまるだけでなく、見方、考え方を深められるようワークシートも併せて作成している。

ウ 通常の授業の中でオンライン学習支援コンテンツを活用したもの

学校再開後に、通常授業の中でオンライン学習支援コンテンツを利用しているものである。ロイロノート・スクール（以下「ロイロノート」と表記）を活用し、授業の事前学習としてロイロノートに解説動画を配信し、それを視聴した生徒が意見を入力してオンライン上で提出する。授業では、提出された全ての生徒の意見を提示し、さらに意見を深めていくことができた。

8人の研究員によって開発されたオンライン学習支援コンテンツについては、下記URLから見るができる。

URL : [https://apec.aichi-c.ed.jp/kyouka/shakai/high/2020/koukaken\\_2020/index\\_koukaken2020.html](https://apec.aichi-c.ed.jp/kyouka/shakai/high/2020/koukaken_2020/index_koukaken2020.html)

## 5 研究のまとめと今後の課題

今回の研究では、各科目において「深い学び」に結びつく発問と資料について、単元構成とともに示すことができた。今後は、今回の研究で得た発問の手法や資料の用い方を応用した授業において身に付けた資質・能力を評価する方法について検討を重ね、3つの観点に基づく評価がどのようになされるか、具体的な形で示せるようにしたい。

また、オンライン学習支援コンテンツについて、休業期間中に作成したものや、学校再開後に発展的に作成したものを含めて類型化し示すことができた。ただし、現在、県としても学校におけるネットワーク環境の充実や、一人一台端末の実現に向けて環境整備を進めている途上の段階であり、ハード面での制約がなされているといえる。今後、ハード面、ソフト面でのネットワーク環境の充実がなされていく中で、地理歴史科、公民科ならではの見方・考え方を生かした「深い学び」に結びつくようなオンライン学習支援コンテンツを継続して研究開発していく価値はあるだろう。

## 6 おわりに

新学習指導要領が実施されるまで、あと1年となった。各学校におかれては、新学習指導要領で求められる学びを意識した授業実践を試行している段階であろう。教科・科目のねらいを踏まえた、生徒の資質・能力を育成するための学習指導の在り方について、本研究は具体的な形で示すことができたと思われる。少しでも、学校現場での授業作りの参考となることを願いたい。

※鈴木健二「思考のスイッチを入れる発問づくり」教師のチカラ編集委員編「子どもを『育てる』教師のチカラ」日本標準、2016年、P 8からP 9。

## 【授業実践開発班：ア 地理B 単元「現代世界の諸地域 ロシア」】

### 前提を疑う発問と資料を効果的に活用した授業実践 —単元：世界の諸地域「ロシア」を題材として—

#### 1 はじめに

本校は、普通科からなる各学年9クラスの高校であり、大多数の生徒は4年制大学に進学する。地理Bについては、2・3年の理系において選択制で開講されている。今回の実践では、地誌のロシアを取り上げる。地誌は系統地理で学習した内容を復習する側面がある。今回は「ロシアと世界の結びつき」「北極圏の開発と環境問題」を1時間で実施することとした。授業展開の中で、地球温暖化について前提を疑う発問を取り入れることで、ロシアの地政学的なメリットに気付かせるようにした。併せて、ロシアと周辺地域の結びつきをさまざまな地図を活用することで理解を促す方策を検討した。これらを通して、ロシアを中心とした周辺地域との結びつきと課題を理解させる授業実践とした。

#### 2 実施する科目 地理B

#### 3 日時・場所 令和2年9月29日(火) 第3限 社会科教室

#### 4 学級 3年5・6組 地理選択者 男子23名 女子17名 計40名

#### 5 単元名 第三編 現代世界の地誌的考察 第2節 現代世界の諸地域 第9節 ロシア

#### 6 単元の目標

大国としてのロシアについて「体制転換後の社会と経済」に着目させ、その上で歴史的背景や産業、自然、世界との結びつき、環境問題を結びつけて地域的特色と地球的課題を考察・理解させ、基礎的・基本的知識を習得させる。

#### 7 単元の指導計画

##### (1) 単元の配当時間(3時間)

- ・ソ連からロシアへ、産業と生活の変化 1時間
- ・進展する資源開発と厳しい自然環境 1時間
- ・ロシアと世界の結びつき、北極圏の開発と環境問題 1時間(本時)

##### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
ロシアに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	資料からロシアの状況や世界との結びつきを多角的に考察し、説明することができる。	さまざまな統計や地図を用いて、ロシアの状況や世界との結びつきを読み取り、理解できる。	ロシアについての基礎的・基本的知識を身に付けることができる。

(3) 指導と評価の計画（3時間）

次程	学習内容	関	思	資	知	評価規準
第一次 (1時間)	【ねらい】ソ連の成立から解体，ロシアの成立の歴史を，産業と生活変化に注目して理解させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソ連の成立・解体，ロシアの成立の歴史と民族構成を理解する。</li> <li>工業と農業について，ソ連からロシアへの変化と現状を理解する。</li> </ul>	●			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史Aでの学習内容を踏まえ，社会主義と資本主義体制下の違いを理解できる。 (ノート)</li> <li>経済の変化や産業の特徴が理解できる。 (ノート)</li> </ul>
第二次 (1時間)	【ねらい】ロシアの工業・農業分布を踏まえて，鉱業・地形・気候の特徴を理解させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアにおける資源分布と開発に伴う問題点を考察する。</li> <li>ロシアにおける地形と気候の特徴を理解する。</li> </ul>		●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパロシアとシベリアにおける開発の特徴の違いを理解できる。 (ワークシート)</li> <li>地形と気候の特徴を確認し，ロシアの産業や生活に与える影響を理解できる。 (ノート)</li> </ul>
第三次 (1時間)	【ねらい】ロシアと世界の結びつきと，地球温暖化に伴う開発について理解させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアと世界の結びつきを，地図と統計データを活用して理解する。</li> <li>地球温暖化に着目し，北極圏開発の事例と問題点を考察する。</li> </ul>			●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな地図やデータから，産業を中心とした周辺地域との結びつきを理解できる。 (ワークシート)</li> <li>環境問題に注目し，開発が注目される理由が多国間の関係性で考察できる。 (ワークシート)</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査(ペーパーテスト)の実施</li> </ul>		●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアについての基礎的事項が理解できる。</li> </ul>

## 8 本時の学習

- (1) 本時の目標 ロシアと世界の結びつきをさまざまな地図を通して理解させるとともに、地球温暖化がロシアや北極海沿岸地域に与える影響を考察させる。
- (2) 教材 新編詳解地理B改訂版（二宮書店）、新詳高等地図（帝国書院）、新詳地理資料 COMPLETE、データブックオブザワールド、ワークシート
- (3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 評価方法
導入 (5分)	前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアの農業、鉱工業の特徴について復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形、気候に留意しながら、教科書の図を用いて確認させる。</li> </ul>	
展開1 (15分)	ロシアと世界の結びつき	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     さまざまな地図から、周辺地域との結びつきを理解させる。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>北極を中心とした地図から、主要国、国家群に隣接することを確認する。</li> <li>モスクワを中心とした正距方位図法の地図、パイプライン輸送網の地図や貿易品目を手がかりに、ヨーロッパ諸国と日本・中国との結びつき方の違いを理解する。</li> <li>CIS について、その特徴について説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北極点を中心とした正距方位図法が有用であることに気付かせる。</li> <li>歴史的背景や気候条件などにより、ヨーロッパ諸国と極東地域では結びつき方が異なることを理解させる。</li> <li>C I S の特徴とロシアとの対立に伴う加盟国の変化に触れる。</li> </ul>	
展開2 (25分)	北極圏の開発と環境問題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     環境問題に注目し、開発が注目される理由を考察させる。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化がロシアに与える影響について考察し、発表する。</li> <li>北極圏の資源開発や北極圏航路の開発について説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化には短所と長所があり、Dw や ET の気候の地域に与える影響に気付かせる。</li> <li>北極圏の活用が期待される一方、環境問題が深刻化する様子を、教科書や地図帳を用いて確認する。</li> <li>北極海に面する国々の関係に留意させる。</li> </ul>	【思考・判断・表現】 ワークシートの記述
まとめ (5分)	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアの地誌について復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この単元のまとめを簡単に行う。</li> </ul>	

#### (4) 本時の評価基準

- ・ロシアに与える影響について考察する場面の評価基準【思考・判断・表現】

「地球温暖化がロシアに与える影響について説明できる」

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
地球温暖化によりロシアで生じる影響について、具体的に説明することができる。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
地球温暖化によりロシアで生じる影響について、理由を添えて説明することができる。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
地球温暖化によりロシアで生じる影響について説明することができない。 → 地球温暖化により発生する問題に注目し、高緯度で起こると思われる内容を説明するよう促す。

### 9 生徒が見方・考え方を働かせた場面

発問の工夫については、展開2の冒頭で「地球温暖化がロシアに与える影響は？」と発問し、各自で考えた後、周囲の生徒と話し合わせる活動を行わせた。この発問は、4つの発問事例の中の「前提を疑う発問」を念頭に置いて行った。地球温暖化の影響については、系統地理では海面上昇による低地の浸水や氷河の融解による洪水、農作物への影響といった点が扱われ、これらは主に熱帯や温帯における悪影響が中心である。亜寒帯・寒帯地域の影響は教科書の図の中で「氷床・海氷の縮小」と「永久凍土が融解し、メタンガスが放出される」と説明され、短所としての側面ばかりが挙げられるであろう。しかし、発問意図としては、亜寒帯・寒帯での影響を確認するとともに、「夏期は海氷や流氷が融解するため、北極海航路として船舶の運航が可能になる」といったロシアの視点に立った長所的な側面に気付くことができるかを確認したいと考えた。

さまざまな地図を活用してロシアと周辺地域の結びつきを理解させる実践は、展開1、2で適宜行った。理解させたい内容に応じた図法の地図を用い、読図や作業を通して各国の結びつきや現象が見られる背景が理解できるように努めた。

### 10 まとめ

#### (1) 成果

発問の工夫については、既習事項を生かして思考することができたと考える。授業実践を行ったクラスの40人を対象としたワークシートの評価は、12.5%をA評価とし、Cはいなかった。長所、短所ともに記述できた生徒も存在した。主に「永久凍土が融解し、メタンガスが放出される」「海氷の縮小により、生態系が崩れる、海面が上昇する」といった記述と、北極海航路に触れる記述が多く、ほぼ想定内の意見であった。北極海航路については、生徒が事前に教科書を読んでいたため記述できた生徒もいた。その他に、「気温上昇により、寒冷地が住みやすくなって人間が住めるようになる」というような記述をする生徒もいた。

地図の活用については、教科書に掲載されている北極中心の地図と、2種類の正距方位図法を用いた。教科書掲載の地図でユーラシア大陸と北アメリカ大陸が北極海を挟んで向かい合う関係であることを把握させた。モスクワ中心の正距方位図法ではウラル山脈を白地図に書き込ませた上で、ロシアとヨーロッパ、中国や日本との結びつきの違いを、例えば原油や天然ガスの輸送方法の違いといった点から考



察させた。2地域間の距離感と山脈が交流の障壁となることを実感し、各地域とのつながりが異なることが理解できたようだ。次に、名古屋中心の正距方位図法を使用し、ロンドンまでの大圏航路と大航海時代・現在・北極海航路の経路を記入し、比較させた。この作業で北極海航路の優位性が実感できたことは、定期考査の記述から読み取れた。

授業実践後、定期考査で論述問題を出題した。対象は3年理系地理選択者106人、評価については、Aは9%、Bが91%とした。深い内容の意見を書くことは時間と行数の都合で難しく、多国間関係に言及する意見はほとんどなかった。また、賛否についてはクラスによるばらつきが大きく、授業の終わり方が否定的に終わったクラスは大半が反対意見を記述した。全体では活用に58%が反対であり、安全性と環境破壊を問題視した解答が多く見られた。賛成意見は航路の短さに注目した解答が中心であった。

授業や考査から、意図をした授業の工夫は生徒達に伝わり、ロシアと周辺諸国の関係や高緯度地方における地球温暖化による影響を長所、短所の両面から考察する必要性は理解できたと考える。

## (2) 課題

課題としては3点ある。1点目は、そもそも地球温暖化が地球に与える影響には問題点が多いため、地球温暖化対策が今後も求められることをさまざまな単元でも扱う必要がある。その上で、この問題を多角的に捉え、考察できるような視点をもつ指導を普段から行う必要を感じた。

2点目は、授業の終わり方と事後の指導である。実践のまとめでは、北極海航路のロシアにとっての経済的な長所と開発に伴う環境問題を中心とした短所を簡単に述べて終わってしまった。この指導案による授業では、北極海航路の利用をこのまま進めてよいのか、整備をどう進めればよいのかという発展的な疑問については触れずに終わってしまった。また、考査の論述からは授業の終わり方で賛否に影響が出るのが読み取れたので、生徒達が自ら考えることを促す工夫が必要であった。業後、生徒に北極海航路の是非について意見をまとめる課題を与えることで、知識の深化を促すことができたのではないかと考える。

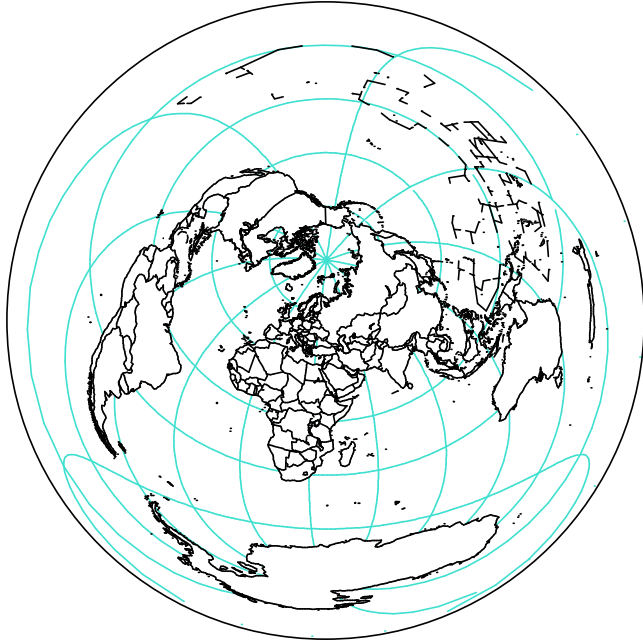
3点目は適切な資料の収集である。今回であれば、授業目標を実現できる地図の用意が必要である。教科書などの図を活用することも重要であるが、必要に応じて地図を作成する手段を研究しておきたい。作業用で使用した地図は、作成に必要な情報を収集した上でハイマップマイスター（帝国書院）により作成した。この他にも、「どこでも方位図法」(<http://maps.ontarget.cc/azmap/>)といったフリーソフトを活用し、授業に必要な資料作成の技術を高めたい。

今回の実践を通して、授業の工夫が生徒に与える効果を実感した。日頃の授業でも可能な範囲で見方・考え方を働かせる工夫を施すことが大切である。

○地図で見る位置関係

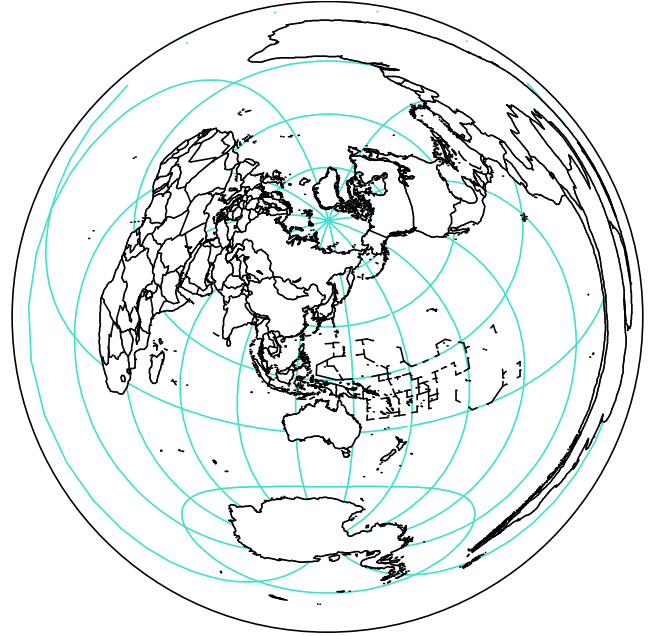
モスクワ中心の正距方位図法

(55° 45' N, 37° 37' E)



名古屋中心の正距方位図法

(35° 10' N, 136° 58' E)



○ロシアとヨーロッパ、中国・日本との結びつき

ヨーロッパ	中国	日本

○ロシアと CIS との結びつき

○地球温暖化がロシアに与える影響は？

○北極圏

## 【授業実践開発班：イ 現代社会 単元「地方自治と住民の福祉」】

### 資料を根拠に、経済的な見方・考え方を働かせ考察する授業実践 —大府市・刈谷市・東浦町の市税・町税は増えたか？—

#### 1 はじめに

本校の普通科の教育課程では、公民科（現代社会）を3年生で2単位履修する。政治経済や倫理を履修しないため現代社会で公民科の目標達成を目指すこと、一方で大学入試において活用する生徒が多いことから、より効率的な授業展開が求められる。そのためには、目標を明確にし、系統立てて授業を進める必要性を強く感じている。そして、生徒の主な通学エリアは、大府市、刈谷市、東浦町であり、生徒が身近に感じられると考え本実践の対象とした。また、知識や資料から得られた情報を活用・思考し結論を出す力は今後ますます求められると考える。そこで、本実践の目標を、「資料を根拠に、経済的な見方・考え方を働かせ、考察させる」ことと設定し、1時間で実践した。

#### 2 実施する科目 現代社会

#### 3 日時・場所 令和2年9月上旬・各ホームルーム教室

#### 4 学級 3年1組から6組（普通科）

#### 5 単元名 地方自治と住民の福祉

#### 6 単元の目標

- (1) 地方自治に対する関心を高め、政治参加への意識を高めさせる。
- (2) 地方自治の組織や地方財政について考察させ、その過程を表現させる。
- (3) 地方自治に関する情報を、的確に読み取らせる。
- (4) 地方自治の組織や地方財政について理解させ、その知識を身に付けさせる。

#### 7 単元の指導計画

##### (1) 単元の配当時間（3時間）

- ・「民主主義の学校」「地方自治の組織と運営」 1時間
- ・「地方分権の推進」「地方財政の危機と地方行政の課題」 1時間
- ・「大府市・刈谷市・東浦町の市税・町税は増えたか？」 1時間（本時）

##### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地方自治に対する関心を高め、政治参加への意識を高めている。	地方財政について、経済的な見方・考え方を働かせ、考察している。	地方自治に関する情報を、的確に読み取っている。	地方自治の組織や地方財政について理解し、その知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画（3時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次 (1時間)	【ねらい】 地方自治の組織について理解させ、政治参加の意義を深めさせる。					
	・地方自治の組織について、政治参加の意義をプリントにまとめさせる。	●			●	・地方自治の組織について理解している。政治参加の意義を深めている。  (ワークシート)
第二次 (1時間)	【ねらい】 地方財政について理解させ、地方分権の課題について考察させる。					
	・地方財政についてプリントにまとめ、地方分権の課題を理解する。			●	●	・地方財政について資料を解釈しまとめている。地方分権の課題を理解している。  (ワークシート)
第三次 (1時間)	【ねらい】 資料を根拠に、経済的な見方・考え方を働かせ、考察している。					
	・資料を読み取り、理由を示して予想する。		●			・資料を的確に読み取り、根拠に基づき結論を出している。  (ワークシート)
事後	・定期考査（ペーパーテスト）の実施	●			●	・地方自治の組織や地方財政についての知識を身に付けている。 ・地方自治に参画することの意義を更に深めている。

8 本時の学習

- (1) 本時の目標 資料を根拠に、経済的な見方考え方を働かせ、考察させる。
- (2) 教材 最新図説現社（浜島書店）、自作のワークシート

(3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 ・評価方法
導入 (15分)	・本時の流れ ・復習	・本時の流れを理解する。 ・歳入項目と税収入について説明を聞き、ワークにまとめる。	・本時の流れを説明する。 ・歳入項目と税収入について説明する。 「ワーク1」	
展開 (20分)	・活用したい資料の選択	・ペアをつくる。 ・9つの資料から活用したい資料を三つ選択する。その理由もワークにまとめる。 ・ペアを解体する。	・資料について、質問があれば説明する。 ・理由が重要であることを強調する。 「ワーク2」	
まとめ (15分)	・結論	・資料を読み取り、市税・町税収入の増減を予想する。その理由もワークにまとめる。 ・正解を聞く。 ・正解した1～2名は理由を発表する。	・資料から読み取ったことを理由に予想するよう指示する。 ・正解を発表する。	【思考・判断・表現】 「ワーク3」

(4) 本時の評価基準

ワーク3の評価基準【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
資料に基づき予想した合理的な理由が、二つの市町村について書かれている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
資料に基づき予想した合理的な理由が、三つの市町村について書かれている。
「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導
資料に基づき予想した合理的な理由が、一つの市町村のみ書かかれている。または、書かれていない。 →各資料が意味することを確認し思考を促す。

9 生徒が経済的な見方・考え方を働かせた場面

ワーク3 情報を意味付ける発問 「資料から読み取ったことを理由に予想しよう」  
獲得の証拠 予想した理由を合理的に説明している。

10 まとめ

(1) 成果

生徒に興味をもって取り組ませることができた。ペアワークでは互いの考えを伝え合い、思考を深めている様子だった。「個人市民税+法人市民税+固定資産税≒市税・町税」という知識を活用し、土地の利用状況や地価公示価格、人口などの資料から予想する生徒が多かった。累進課税による効果を日経平均株価から予想する生徒もいた。また、少数ではあるが「(歳出金額=歳入金額) - 市債・町債

「地方交付税＝地方税＋国庫支出金」ということに気付き予想する生徒もいた。多くの生徒から、知識と資料から得た情報を活用・思考し結論を出させることができたように感じる。1時間の配当時間で実践が完結できたことも、効率的な授業展開という観点から意味があると思う。

## (2) 課題

知識や資料から得られた情報を活用し、思考することによって結論を出す力は今後更に求められる。そのためには、資料を的確に読み取ることと思考するトレーニングを繰り返すことが重要だと考える。本実践の課題としては、資料の種類がワンパターンだったこと、思考過程を幾つかのパターンに狭めてしまっていたことだと感じる。今後、さまざまな資料に触れさせ、また、オープンエンドの課題に取り組みせることによって思考を深める授業実践を模索したい。

## 各資料

### 1 土地の利用状況（宅地） 出典：各市町村ウェブページ

	大府市 ha	刈谷市 m <sup>2</sup>	東浦町 ha
2014年 H26	1039.5	17,165,024	690.1
2015年 H27	1046.4	17,249,719	689.2
2016年 H28	1051.8	17,338,490	691.5
2017年 H29	1059.7	17,474,498	690.8
2018年 H30	1067.6	17,547,984	694.2

### 2 外国人人口 単位：人 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	1,872	3,686	1,258
2015年 H27	1,995	4,036	1,351
2016年 H28	2,143	4,364	1,421
2017年 H29	2,351	4,757	1,462
2018年 H30	2,589	5,176	1,506

### 3 犯罪発生状況 単位：件 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	904	1,817	407
2015年 H27	781	1,327	326
2016年 H28	695	1,323	289
2017年 H29	659	1,237	308
2018年 H30	568	1,030	207

### 4 人口推移 単位：人 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	88,550	148,449	50,337
2015年 H27	89,423	149,131	50,282
2016年 H28	90,160	150,079	50,238
2017年 H29	91,384	150,658	50,419
2018年 H30	91,952	151,657	50,283

### 5 日経平均株価（始値） 単位：円 出典：YAHOO JAPAN ファイナンス

2014年 H26	16,147
2015年 H27	16,850
2016年 H28	19,000
2017年 H29	19,400
2018年 H30	23,120

6 地価公示価格の推移 単位：万円/m<sup>2</sup> 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	10.2	13.1	7.6
2015年 H27	10.5	13.3	7.6
2016年 H28	10.7	13.5	7.6
2017年 H29	10.8	13.7	7.0
2018年 H30	11.1	14.0	7.1

7 一般会計決算状況（歳入の市債・町債） 単位：千円 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	568,600	—	558,200
2015年 H27	214,300	224,100	705,100
2016年 H28	600,200	558,000	501,300
2017年 H29	710,800	2,805,500	713,300
2018年 H30	982,800	1,776,700	666,900

8 一般会計決算状況（歳入の地方交付税交付金） 単位：千円 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	70,980	52,291	414,793
2015年 H27	68,364	40,684	396,076
2016年 H28	63,680	37,972	346,009
2017年 H29	59,238	30,912	344,197
2018年 H30	58,162	31,389	413,719

9 一般会計決算状況（歳出） 単位：千円 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	27,206,190	52,230,184	13,729,707
2015年 H27	26,579,648	53,818,800	13,907,168
2016年 H28	27,913,295	55,877,406	14,599,738
2017年 H29	28,125,929	60,366,690	14,348,891
2018年 H30	31,334,947	59,248,811	15,687,398

**正解**

一般会計決算状況（歳入の市税・町税） 単位：千円 出典：各市町村ウェブページ

	大府市	刈谷市	東浦町
2014年 H26	17,060,811	37,419,218	8,191,346
2015年 H27	17,147,379	35,343,577	8,222,089
2016年 H28	18,375,648	36,310,655	8,260,858
2017年 H29	17,284,744	34,933,985	8,281,977
2018年 H30	18,820,007	37,679,116	8,276,689



## 大府市・刈谷市・東浦町の市税・町税は増えたか？

### ワーク1：復習しよう

地方財政の歳入項目で割合が高いのは・・・ 図説 P163

No1 \_\_\_\_\_ No2 \_\_\_\_\_ No3 \_\_\_\_\_ No4 \_\_\_\_\_

市町村の地方税収入で割合が高いのは・・・ 図説 P207

No1 \_\_\_\_\_ No2 \_\_\_\_\_

問 大府市・刈谷市・東浦町の市税・町税収入は、2014年と比較し、2018年は増えたか？減ったか？  
使いたい資料を以下から三つ選び、根拠に基づき予想しなさい。なお、全ての資料は2014年～2018年の推移が示されている。さらに、「日経平均株価」以外の資料は、大府市・刈谷市・東浦町について示されている。

#### 資料

- 1 土地の利用状況（宅地） 2 外国人人口 3 犯罪発生状況 4 人口  
5 日経平均株価 6 地価公示価格 7 一般会計決算状況（歳入の市債・町債）  
8 一般会計決算状況（歳入の地方交付税交付金） 9 一般会計決算状況（歳出）

ワーク2：使いたい資料を三つ選ぼう。また、その理由を書こう。

資料番号 \_\_\_\_\_

理由：

ワーク3：予想しよう。また、その理由を書こう。

予想 市税・町税収入は・・・

大府市（増えた・減った） 刈谷市（増えた・減った） 東浦町（増えた・減った）

理由：

## 【授業実践開発班：ウ 倫理 単元「日本人としての自覚（日本思想）」】

### 「教科書ごと」を「自分ごと」に置き換えて“問いを立てる力”を育てる日本思想 —「単元を貫く問い」で「期待する生徒像」を目指すアクティブラーニング—

#### 1 はじめに

ともすると倫理は用語説明や人物紹介を一方向的にレクチャーして、まるで「倫理史」の授業のように展開されてしまう。先哲の思想を手がかりに自分の在り方・生き方を「考える」には、考える時間を授業の中に保障する必要がある。授業の内外で自ら考えることやコミュニケーション能力が大事と言いながら、そういう場面を確保しないのは責任放棄とも思える。本校の学校教育目標の一つは主体性の育成であり、授業時間もその達成に向いているのは当然である。高校の道德教育の核となる「倫理」が、「考え、議論する倫理」として機能するためにも対話や協働の時間は欠かさず差し込み、年間を通して全面的にアクティブラーニングを実践する。主体的に考え行動できる生徒を育てるために、各単元でまとまりのある目標を掲げ、毎時の授業の「めあて」に向けたスモールステップを踏むという学びを試みたい。

#### 2 実施する科目 公民科・倫理

#### 3 日時・場所 令和2年8月25日（火） 社会科教室

#### 4 学級 第2学年5組（普通科）男子17名 女子24名 計41名

#### 5 単元名 「日本人としての自覚（日本思想）」

#### 6 単元の目標（※本稿は、新学習指導要領における科目の目標や観点別評価に基づいて実践する）。

古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手がかりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察したり表現したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

#### 7 単元の指導計画（19時間）

##### (1) 単元の配当時間

第一次 （単元の導入）古代日本人の思想 3時間

第二次 日本の仏教思想 3時間

第三次 近世日本の思想 4時間

第四次 西洋思想の受容と展 5時間

第五次 （単元のまとめ）日本人としての自覚と現代日本の課題 4時間

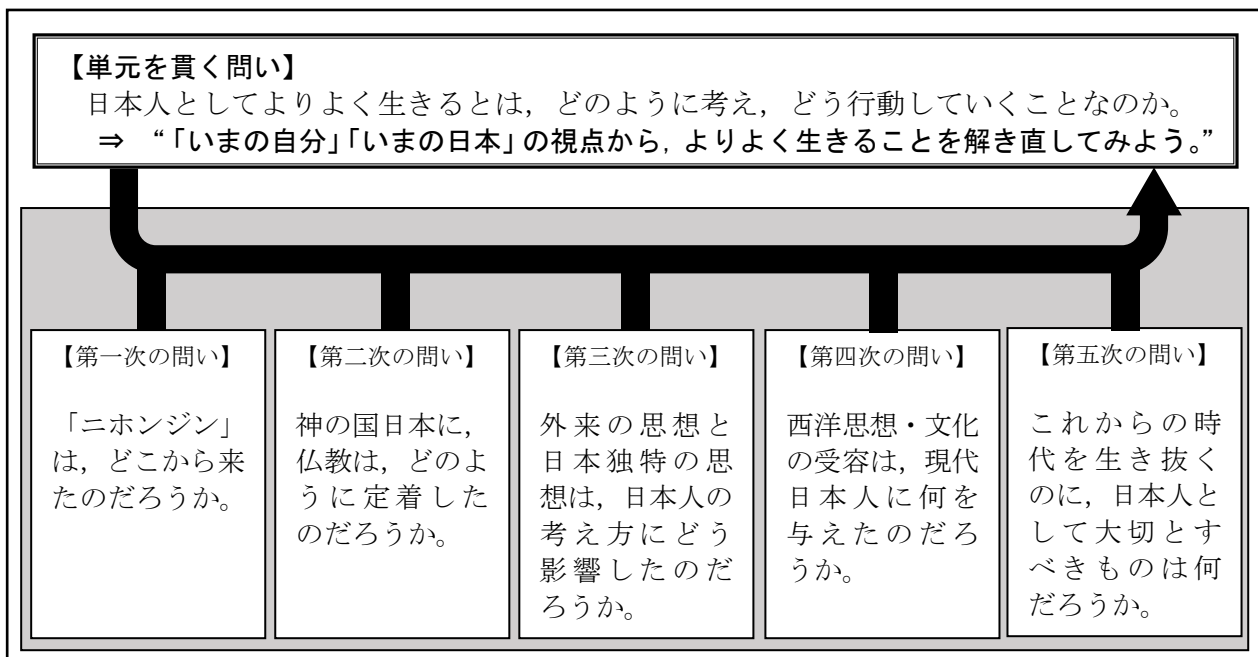
(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人に見られる人間観や自然観、宗教観について、古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想、外来の思想の受容などを基に理解している。</li> <li>代表的な日本の先哲の思想について、原典などの諸資料を活用しながら、日本人としての自覚を深め、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を追究・構想しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人としての自覚に立ち、他の国の人々や文化を尊重して、国際社会から期待される立場や社会の変容について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> <li>日本人の在り方生き方の学びを通して、自分自身の生き方を問い直したり現代社会における課題と結び付けたりして、倫理的な判断基準を形成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。</li> </ul>

(3) 指導と評価の計画（単元を貫く問い）

全単元で思想家や重要語句を「いまの自分」「いまの日本」の問題意識や課題に結び付けて検討し、よりよく生きるためにどう考え、どう行動していくことが大事なのかについて、自分ごとの視点から考察できているか、授業の様子やワークシートの内容から評価・判断する。

年間の学習目標（期待する生徒像）を「自ら多面的・多角的に考察、構想し、表現している生徒」とし、それに向けて本単元を貫く問いを設定し、毎時の授業の指導のねらいは生徒の取組の実態に応じて、指導計画に関わらず、指導内容や支援の在り方を適宜見直して年間目標を達成するよう努める。



8 本時の学習

- 本時の指導 古来日本に外来の仏教思想がどのように浸透・定着したか班で調べて全体に発表する。また発表内容と結び付いた現代日本の課題や日常生活問題で「問い」を立てて全体で協議、検討する活動を通して、倫理の学習内容を身近な考察問題へ落とす構想力を身に付ける。
- 教材 教科書「高校倫理 新訂版」（実教出版），資料集「最新図説 倫理」（浜島書店）  
自作ワークシート

(3) 本時の指導計画

○「評価に用いる評価」

●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
1 時 間	<p>【第二次のねらい】 日本に外来の仏教思想がどのように浸透・定着したか班で調べて発表するとともに、発表内容と結びついた現代日本の課題や日常生活問題で「問い」を立てて全体で協議、検討させる活動を通して、倫理の学習内容を身近な考察問題へ落とす構想力を身に付けさせる。</p>				
	<p>【第二次の問い】 神の国日本に、仏教は、どのように定着したのだろうか。</p> <p>◇聖徳太子から鎌倉仏教にかけての仏教思想について調べ、発表する。また、担当した発表内容を現代日本の課題や日常生活問題に転用した問いを立てて、全体で協議、検討する。</p> <p>問 神の国日本に、仏教は、どのように定着したのだろうか。</p> <p>留)・グループが設定した「問い」が全体で協議するのにふさわしいものとなるように、できるだけ肯定・否定、賛成・反対の枠組みで検討できるような問題設定となるように指示する。</p> <p>・グループから提起された「問い」が全体で協議するのにふさわしくない場合には、いったん保留とし、全体協議の前に再検討させて修正を求める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈調べ学習・発表テーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教伝来と奈良仏教の特徴</li> <li>・ 平安仏教の特徴と末法思想</li> <li>・ 聖徳太子    ・ 鑑真            ・ 最澄            ・ 空海</li> <li>・ 源信            ・ 法然            ・ 親鸞            ・ 栄西</li> <li>・ 道元            ・ 日蓮</li> </ul> </div> <p>◇各グループから提起された問いに対して、グループごとの協議に参加するとともに、自分自身の考えを整理し、考察したことを表現している。</p> <p>留)・グループ内の協議や全体に報告された意見などを手掛かりにして、ワークシートには自分自身の考えを記述するように強調する。</p>		●	●思想家の考えや仏教の特徴を分かりやすく伝えるとともに、それを具体的な日常生活問題に落として「問い」を設定、構想している。  (成果物、発表内容)	
			○	○グループ内で話し合ったことや他グループの意見を基に、自分の考えを深めたり、学習内容を具体的に理解したりしている。  (ワークシート)	

(4) 本時の評価基準

担当した思想を全体に分かりやすく表現するとともに、各班から提起された問いに対して、考察を深め、自分自身の考えを整理し、表現している。

9 生徒が見方・考え方を働かせた場面

「倫理」の学習事項を単なる知識としてとどめず、それを「自分ごと」に落とす学びを継続して重ねてきた。この思想家が「いまの自分」に言いたいことは何なのか、その考え方が「いまの世の中」にどんな手がかりを与えてくれるのかなど、学習事項と自分の在り方・生き方とを常に往復する営みを繰り返すことで、先哲の思想が別単元の学習の中でも生きるだけでなく、生徒が抱える目の前の迷いや課題にヒントを与え生きて働く指針になる。

## 10 まとめ

### (1) 成果

生徒が主体的に考えるようになるにはどうすればよいか。独り善がりの考えに陥らず他者の意見に耳を傾けるにはどうすればよいか。協働したり表現したりする力を伸ばすにはどうすればよいか。その答えは、全てアクティブラーニングの中にある。説明的で、与えるだけの授業で、それを達成しようという方が難しい。知識理解の定着だけをねらうなら、講義型の方が効率的なのかもしれない。けれども時代は目指す資質・能力を、学び続けようとする態度や思考力・判断力の育成へとシフトしてきている。思考力・判断力・表現力の育成を目標に掲げた本実践は、それを達成するための時間や場面を授業の中に全面的に保障したことで、期待どおりの成果が認められた。他者と協働したり、主体的に考えようとしたりする学びを通して別のことにも見方・考え方を働かせ、「倫理」という科目の中にとどまらず、日常の課題や自分の生き方へと転用できるのは、この科目が期待する資質・能力の本丸である。自ら調べる、まとめるといった取組を繰り返すうちに、教科書程度は自分たちで読解できるようになり、「学び方」を示しさえすれば、生徒は自ら理解しようとすることができる、まさに主体的な学びの姿勢が確認できた。

### (2) アクティブラーニングへの躊躇

私は全ての授業でアクティブラーニングに舵を切ったが、そこには相当な迷いや思い切りも必要だったし、今も悩みが尽きるわけでもない。ただ、主体的・対話的で深い学びが叫ばれる今、少なくとも講義型で展開することの限界は明白となった。ここで、よく聞かれることに応答したい。まず、「教科書を教え込まない授業でも、知識理解の定着は大丈夫か？」大丈夫である。それでセンター試験や模擬試験の成績が落ちたことはない。むしろ、講義型の授業で習ったことは忘れやすいが、調べたり発表したりしたことは意外と頭に残っているという生徒は多い。次に、「調べたりまとめたりしていると、教科書を終えられないのではないか？」むしろ今の方が進度は速い。全てを説明しようとするれば時間は足りないが、的確に指示さえ出せば、強制しなくとも生徒は自主的に調べたりまとめたりしようすることができる。最後に、「アクティブラーニングをどう実践すればよいか？」実は生徒の方がよく分かっている。入学したばかりの高校1年生でも、班を作ったり話し合ったり、全体に発表するのも驚くほど上手にできる。中学校までの学びを高校教員は意外と分かっている。せつかく持ち合わせている高い技能を、高校の学びに上手に接続するだけのひと工夫が求められる。

### (3) 課題

生徒の学びの適切な評価は、教員が授業改善の視点をもつための重要な指標になる。思うように生徒の学びがはかどらないのは指導の見直しが必要なことを意味している。生徒の実態に応じて、評価規準を再設定したり、授業手法そのものを考え直したりする柔軟性も必要だ。生徒の思考を揺さぶりながら、知識・技能の定着や学びに向かう姿勢を高める手だてについて不断の検討が要請されている。

また、知識理解は思考・判断するための前提であり軽視されてはならないが、それが大半を占めるようなチョーク&トークからは脱却した方がよい。スタディサプリの動画コンテンツでも見られるような説明を、わざわざ生徒を教室に集めて私たちが再現する意味があるかどうか、要検証事項なのである。本実践では、生徒が活発に議論したり、伝える工夫をしたりして、科目柄それは道徳教育でもあり、キャリア教育でもあるような側面が見られる一方で、「学級会」とも映ってしまうくらいを超えて、やはり倫理の学習事項に戻し改めて考え直すという営みも十分にする必要があった。

## 【授業実践開発班：エ 日本史A 単元「第一次世界大戦と日本」】

### 資料から読み解く大戦景気 —複数の資料を活用した授業実践—

#### 1 はじめに

日本史Aの授業では、授業進度の関係もあり人物名や重要語句を覚えさせることが中心となりがちで、生徒もテストのために覚えるということが終わってしまうことが多い。そこで今回は大戦景気に関する複数の資料を生徒に提示し、その内容を読み解く授業を行うことで、資料活用の技能を育成することを目指した。また読み取った内容から大戦景気を与えた影響についてまとめさせることで、自ら考察し文章で表現する能力を身に付けさせたいと考え、個人での学習活動とグループワークを併用した授業を実施した。

#### 2 実施する科目 日本史A

#### 3 日時・場所 令和2年9月16日(水) 第5限 2年4組教室

#### 4 学級 2年4組(普通科) 男子22名 女子19名 計41名

#### 5 単元名 第3章 第一次世界大戦と日本 3 経済・社会の変容

#### 6 単元の目標

- (1) 資料から大戦景気の実態について読み取り、経済や社会に与えた影響について考察させる。
- (2) さまざまな社会運動の発展について理解させ、普通選挙が求められた理由について考察させる。

#### 7 単元の指導計画

##### (1) 単元の配当時間(2時間)

- ・主題学習「大戦景気」 1時間(本時)
- ・社会運動の勃興と普選運動 1時間

##### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
大戦景気とそれがもたらした社会の変化について興味・関心をもち、積極的に授業に参加している。	大戦景気が日本の経済、社会に与えた影響について、資料に基づきながら自分の言葉で表現している。	複数の資料を組み合わせることで、大戦景気の実態について深く読み取ることができる。	大正デモクラシーの風潮の中、大戦景気のひずみにより発生したさまざまな社会運動について理解している。

(3) 指導と評価の計画（2時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次 （1時間）	<p>【ねらい】複数の資料から大戦景気の実態を読み取り，大戦景気が日本の経済や，社会に与えた影響について考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料を組み合わせて，大戦景気の実態について読み取る。</li> <li>・大戦景気が日本の経済，社会に与えた影響について考察する。</li> </ul>	●		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料を組み合わせて新たな視点からの情報を読み取っている。 （ワークシート）</li> <li>・複数の資料を基に，大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について考察している。 （ワークシート）</li> </ul>
第二次 （1時間）	<p>【ねらい】大戦景気のひずみの中，さまざまな社会運動が発展したことを理解し，諸問題解決のため普通選挙が求められた点について考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦景気によるひずみの中，さまざまな社会運動が展開されたことについて理解する。</li> <li>・さまざまな社会運動が展開される中で，普通選挙が求められた理由について考察する。</li> </ul>	●		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働運動だけでなく，さまざまな社会運動が展開された点について理解している。 （ワークシート）</li> <li>・諸問題解決の方策として国民の政治参加が求められた点について考察している。 （ワークシート）</li> </ul>

## 8 本時の学習

- (1) 本時の目標 大戦景気の実態について複数の資料を組み合わせ読み取り，日本の経済や社会に与えた影響について考察して自分の言葉でまとめさせる。
- (2) 教材 ワークシート「大戦景気について考える」，参考資料「大戦景気」
- (3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 (5分)	本時の説明	・本時の学習内容，目的を理解する。	・教科書，資料集は使用しないため，しまわせる。	
展開1 (10分)	<b>ワーク1</b> 大戦景気に関する資料の読み取り	・大戦景気に関する資料1～11を読み，それぞれ読み取ることができる情報をワークシートに記入する。	・読み取ることができる情報は一つとは限らないことに留意させ，周囲と相談せずに読み取らせる。	【資料活用の技能】 ワークシート
展開2 (20分)	<b>ワーク2</b> 複数の資料から見える大戦景気	・複数の資料を組み合わせることで読み取ることができる情報についてワークシートに記入する。 ・4人程度のグループを作り，意見交換をしながらより深く考察する。 ・グループ内で共有した情報を代表者が発表する。	・組み合わせることにより具体化できただけでなく，新たに見えてくることについても読み取らせる。 ・他者の意見やアドバイスについては色ペンで記入させ，思考の深化を分かるようにさせる。	【資料活用の技能】 ワークシート
展開3 (10分)	<b>ワーク3</b> 大戦景気の影響	・グループを解体し，大戦景気が日本の経済，社会に与えた影響について各自で考察し，ワークシートにまとめる。	・大戦景気が日に与えた影響を資料に基づいて考察させ，自分の言葉でまとめさせる。	【思考・判断・表現】 ワークシート
まとめ (5分)	本時のまとめ	・ワークシートに本時の感想や新たな発見などを記入する。	・ワークシートを回収する。	



(4) 本時の評価基準

- ・複数の資料を基に大戦景気が日本経済や社会に与えた影響について考察している。

【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例
・輸出の拡大により紡績や製糸業などの繊維産業が大きく成長する一方、海運や造船業の成長重工業の発展を促し、工場労働者が増加した。また物価の上昇が賃金上昇を上回っていたため、労働者の生活は苦しく、労働争議が多発する一因となった。
「十分満足できる」状況(A)と評価される例
・上記(B)の記述に加え、工業生産額が農業生産額を上回った点、繊維産業の好調な輸出が貿易黒字につながった点、貧しい工場労働者と一部の成金の対比などについても説明している。
「努力を要する」状況(C)と評価される生徒の例と教師の指導
・大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について考察できていない。 →資料から読み取ることができる内容を確認させ、再度考察させる。

## 9 生徒が見方・考え方を働かせた場面

### (1) **ワーク 1**の記入例

資料 2：大戦前は蒸気機関が主だったが、大戦中から電動機が上回っている。  
資料 4：賃金も上昇しているがそれ以上に物価も上昇している。  
資料 6：生産総額が約 4 倍となり、工業の割合が農業の割合を上回る。  
資料 11：農業従事者が工場で働くようになった。

今回の資料は、全て教科書や資料集から引用（一部加工）したもので、生徒には分かりやすいものであった。そのため多くの生徒が必要な情報を読み取ることができた。特に大戦景気の特徴である輸出超過や蒸気機関から電力への転換、農業国から工業国へといった基本的な内容は確認することができた。

### (2) **ワーク 2**の記入例

資料 2, 8

従来の蒸気機関の動力に加えて、電動機を大量に導入したことによって製造業が飛躍的に活発化したと考えられる。

資料 1, 5, 9

生糸や綿織物生産・輸出が増加した結果、輸出総額が輸入総額を超えるようになり、債務国から債権国となった。

資料 3, 4, 6, 11

工業生産額が増加し、農村から出て工場などで働く人が増加したが、物価上昇に賃金が追いつかず、生活が苦しかった労働者が労働争議を起こした。

複数の資料を自由に組み合わせて考察することは、生徒にとっても新たな経験のようであったが熱心に取り組んでいた。2つの資料の組み合わせが多いのではと思っていたが、3つ以上の資料を組み合わせる生徒の方が多かった点は評価できる。また、ある程度個人の考えをまとめたところで周囲の生徒と意見交換を行わせた。その結果、積極的な議論が行われ、深く考えようとする姿勢が見られた。

蒸気機関から電力へ、繊維産業を中心とした輸出の拡大、低賃金の工場労働者が労働争議に参加し

たなどの基本的な内容は、多くの生徒が考察することができた。また資料6, 7, 8より「工業生産額や工場などの増加に対し労働者の増加割合が少ないのは、電力を用いた機械生産による効率化では」という意見や、資料1, 10より「1928年の絵であるということは、この後恐慌が発生することも知らなくて、という皮肉の意味がある」など、細かな点に着目する生徒もいた。

### (3) **ワーク3**の記入例

戦争需要による造船業、製糸業、紡績業などの産業の発展と、それに伴う機械化による効率化で、日本の経済は飛躍的に成長した。しかし低賃金と高物価に苦しむ人々と、成功して財をなす人々との格差が拡大し、それが労働争議へと発展した。また都市の発達による労働力需要の増加が、農村から都市への人口流入を引き起こした。

ワーク2で資料の読み取りがある程度できていたものの、メモ書き程度の記入の生徒も多かったため、自分の言葉でまとめられるかが不安もあったが、ほとんどの生徒がきちんと文章化してまとめることができた。その一方で事実を羅列にとどまった生徒も見られ、「歴史は覚えるもの」との感覚から抜け出せていないように感じられた。

### **本時の評価**

A : 15人 (35.6%)    B : 23人 (56.1%)    C : 3人 (7.3%)

## 10 まとめ

### (1) 成果

これまでの授業でも、一つの資料から読み取れることや考えられる点についての発問をしてきているので、生徒はスムーズに今回の学習にも取り組むことができた。またグループワークについては、今年度は実施できていなかったため多少の心配があったが先に個人学習で自分の考えをもたせたことと、中学時を含めて昨年までの経験が豊富にあったことなどから、活発に意見交換をすることができたとと言える。

### (2) 課題

今回は手に入れやすい資料を活用するという意図で、教科書や資料集に掲載されている資料を活用した。また特定の事実を読み取らせるために資料を選んだわけではないため、生徒のさまざまな考察がみられた反面、やや焦点がぼやけてしまったところもあった。「複数の資料を組み合わせる情報を読み取る」という目的には合致していたが「大戦景気が日本の経済・社会に与えた影響を説明する」という点からすると、資料の精選を図るべきであったかもしれない。

次の時間の冒頭に補足として、「大戦景気を支えた一つとして生糸と綿織物の輸出拡大があったが大戦中にどこにたくさん売れたのだろうか?」という発問をした。周囲の生徒と相談させたが、あまりよい回答は返ってこなかった。このことから、目の前にある資料を組み合わせることはできるが、現状を多面的・多角的に捉えた上で考察することまではできていないことが推測される。今後は考察するための材料(条件)を見つけ出す力を伸ばす授業が必要であると考えられる。

## 11 参考文献

- ・『最新日本史図表 三訂版』(第一学習社)
- ・『図説日本史通覧』(帝国書院)
- ・『歴史資料館 日本史のライブラリー』(東京法令出版)
- ・『新詳日本史』(浜島書店)
- ・『山川デジタル素材集日本史』(山川出版社)

◎ワークシート 一大戦景気について考えるー

ワーク1 それぞれの資料から何を読み取ることができるか？

○ 資料1

○ 資料2

○ 資料3

○ 資料4

○ 資料5

○ 資料6

○ 資料7

○ 資料8

○ 資料9

○ 資料10

○ 資料11

**ワーク2** 二つ以上の資料を組み合わせると何を読み取ることができるか？

○使用する資料： \_\_\_\_\_

○使用する資料： \_\_\_\_\_

○使用する資料： \_\_\_\_\_

○使用する資料： \_\_\_\_\_

○使用する資料： \_\_\_\_\_

**ワーク3** \_\_\_\_\_ 大戦景気が日本の経済や社会に与えた影響について説明せよ \_\_\_\_\_

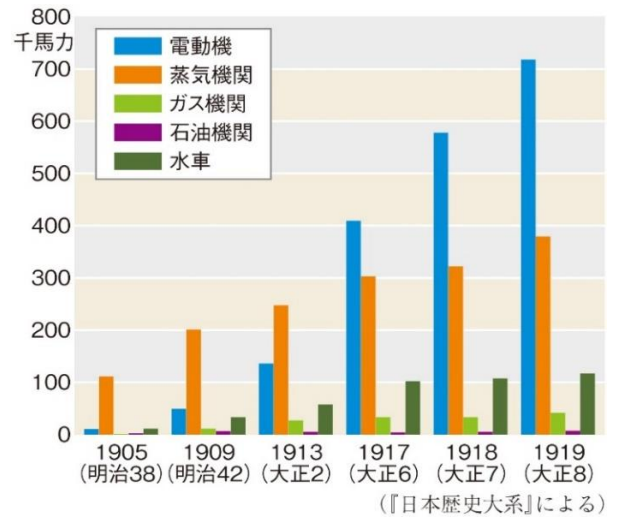
ふりかえり

新たな発見や気づいたことなど

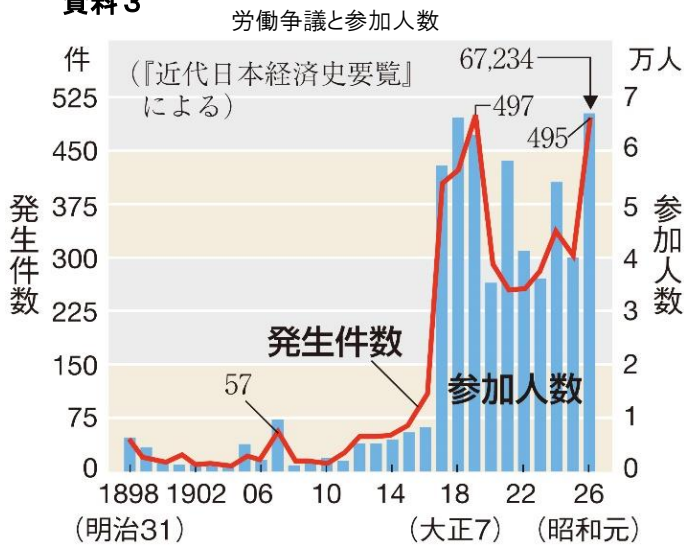
資料1



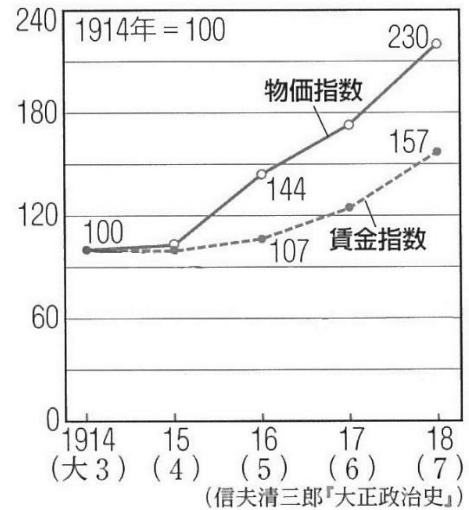
資料2



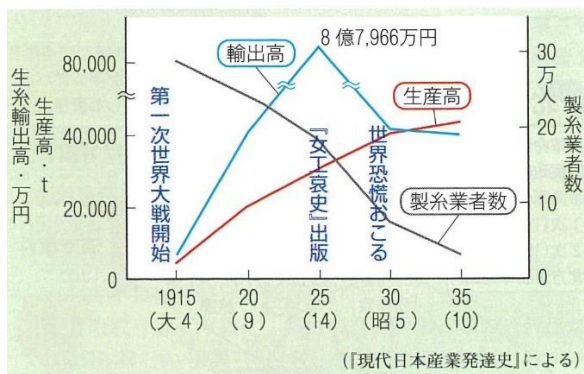
資料3



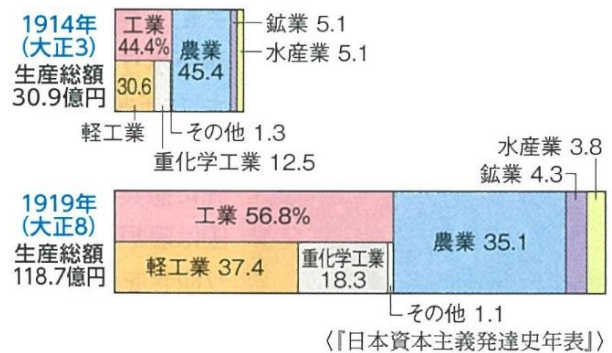
資料4



資料5



資料6



資料 7

	1913(A)	1918(B)	B/A(倍)
造船業者数	5	52	10.4
造船工場数	6	57	9.5
造船台数	17	157	9.2
工場労働者数	2万6139	10万7260	4.1
建造汽船総トン数	5万1525	62万6695	12.2

(三和良一『近現代日本経済史要覧』による)

資料 8

年	発電量 (百万kwh)	製造業の原動力馬力数(千馬力)		
		うち蒸気機関比率(%)	うち電動機比率(%)	
1914	1791	561.6	47.6	30.6
1919	4193	1262.6	30.1	56.8
1924	7835	2316.0	32.2	62.2
1929	15123	3783.5	20.0	78.3
1934	21774	4499.5	15.8	81.3

(東京大学出版会『日本経済史3』)

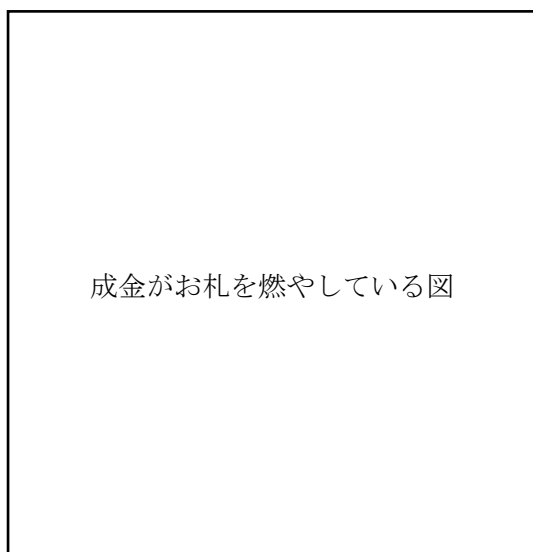
資料 9

企業の新設・拡張 (公称10万円以上の企業の資本金増加比)

業種	1914(大3) (A) (万円)	1919(大8) (B) (万円)	B/A(倍)
海運業	1930	1億9550	10.1
鉱業	1670	2億8940	17.3
重化学工業	1460	2億4930	17.1
化学造船業	20	2240	112.0
工業金属工業	130	4470	34.4
紡績業	170	2億6020	153.1
織布業	320	2億1390	66.8
銀行業	5200	6億4260	12.4
鉄道業	3120	2億1710	7.0
電力業	3100	4億6100	14.9
全企業総計	2億5080	40億6850	16.2
以上のうち 新設	1億1710	26億8050	22.9
拡張	1億3370	13億8800	10.4

(高橋亀吉『大正昭和財界変動史』など)

資料 10



資料 11



【授業実践開発班：オ 世界史B 単元「百年戦争 14～15世紀の西ヨーロッパにおける中央集権化」】

百年戦争 14～15世紀の西ヨーロッパにおける中央集権化

一日欧教科書比較・メモリーツリー・効果的な事前／事後学習を用いた歴史解釈の授業ー

1 はじめに

日本における百年戦争に関する理解は「フランス王位継承権を巡る争い」「ジャンヌ＝ダルクが活躍してフランスを救った」というイメージが強い。一方で、教科書の記述は近年の研究動向の反映の程度に差があり、記述内容に違いが見られる。そこで、百年戦争を記述した複数の資料（日本の5種と欧州共通教科書の記述）を比較する授業を計画した。この実践では歴史叙述における視点設定の重要性に気付かせることを目標の第一とする。それと共に、自ら設定した視点から、百年戦争を通して中世後期（十字軍以降）から近世にかけての西ヨーロッパ社会の変化を表現させる。これにより、中世ヨーロッパ史の単元全体を振り返り、概観させることを目標の第二とする。

なお、生徒に身に付けさせたい力（期待される生徒の変容）は以下の3点である。

- ・複数の資料から、歴史叙述における視点の多様性を認める力。
- ・自分で立てた視点を基に、情報を要約し、説明する能力。
- ・具体的な事象から、時代の変化を読み取り、自分の言葉で表現できる力。

2 実施する科目 世界史B

3 日時・場所 令和元年11月5日（火）第4,5限 社会科教室

4 学級 2年4・5組世界史選択者,6組（2講座） 男子18名 女子44名 計62名

5 単元名 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 3 ヨーロッパ中世世界の変容 百年戦争

6 単元の目標

- ・百年戦争に関する各州活動を通じて、学び合った点や理解が進んだ点を自ら見いださせる。
- ・他者の視点を参考にしながら、根拠をもって自分なりの視点を立て、大きな時代の変化を読み取らせる。
- ・百年戦争を記述した複数の資料（教科書記述）を比較し、その視点の違いを読み取らせる。
- ・百年戦争に新たな名称を付けることで戦争の意義を理解し、それを基に、資料を要約させる。

7 単元の指導計画

(1) 単元の配当時間（3.5時間）

- ・西欧中世社会の特色（復習） 0.5時間
- ・百年戦争 2時間（本時＝1／2時間）
- ・百年戦争の意義 1時間

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
単元の前半と後半の学習活動の成果を比較することで、今回の学習活動によって、学び合った点や自分の理解が進んだ点を自ら見いだせている。	他者の視点を参考にしつつ、根拠をもって自分なりの視点を立て、大きな時代の変化を読み取れている。	複数の資料（教科書記述）を比較し、その視点の違いを読み取っている。	百年戦争に新たな名称を付けることで戦争の意義を理解し、それを基に、資料（『欧州共通教科書』）を要約できている。

(3) 指導と評価の計画（3.5時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次 （1時間）	【ねらい】封建制を中心とした西欧中世社会の特色を理解し、百年戦争の意義を考察する意欲を高める。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西欧中世の封建的主従関係における国王権・11世紀以降のイングランド領の変遷・十字軍以降のヨーロッパ社会の変化を復習する。</li> <li>・百年戦争に関する教科書記述をまとめ、疑問に思った点や、より学びたい点を挙げる。</li> </ul>	●				<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既習範囲の要点が理解できている。（ワークシート）</li> <li>● 百年戦争に関して、主体的に学ぶ意欲を示している。（ワークシート・まとめ図）</li> </ul>
第二次 （2時間）	【ねらい】百年戦争に関する歴史叙述比較から課題を見だし、百年戦争から読み取れる西欧中世社会の変化を説明する。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書記述を比較する。</li> <li>・百年戦争の叙述の歴史的背景を踏まえ、自分なりの視点を立てる。</li> <li>・自分の視点に即した新名称を付ける。</li> <li>・第一次で疑問に思った点を質疑応答や映像視聴により学ぶ。</li> <li>・自分の新名称を踏まえて資料（『欧州共通教科書』）を読みとり、内容をまとめる。</li> </ul>	●		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書ごとの記述における視点の違いを読み取ることができる。（ワークシート）</li> <li>● 資料を基に自分なりの視点を立てることができる。（ワークシート）</li> <li>● 自分の視点と読み取りを基に、百年戦争の特色を理解できている。（新名称の作成）</li> <li>● 事実に即して、理解を深めている。（質疑応答等）</li> <li>● 自分の視点を基に、資料を要約できている。（ワークシート・まとめ図）</li> </ul>



第三次 （1時間）	【ねらい】他の生徒の学習活動から，自分の学習成果を客観的に分析する。			
	・各生徒の学習成果の比較から，大きな時代の変化を読みとる。	●		・他の生徒の学習活動から，自分が時代の変化を読みとれているか自己分析できている。 (ワークシート)
事後	・振り返り	●		・学習活動を通じて，自分が学んだ点や気付いた点をまとめ，歴史的思考力を身に付ける態度を育てている。 (ワークシート)

## 8 本時の学習

- (1) 本時の目標 百年戦争に関する歴史叙述比較から課題を見いださせ，自分の視点に即した新名称を考える。
- (2) 教材 『詳説世界史B』（山川出版社），『ニューステージ 世界史詳覧』（浜島書店），ワークシート
- (3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 ・評価方法
導入 （2分）	・班別学習の準備	・5人1組で資料を回覧しやすいよう，着席する。	・班別学習がしやすいよう，机の位置等に注意する。	
展開1 （28分）	・資料（教科書記述）の比較  ・叙述の違いによる歴史的背景の	・各資料の記述の違いをグループで比較する。 教科書記述の比較を通じて，同一事象に対して異なる叙述が可能なことを認識することで，学習意欲を高める。 戦争の原因や展開の理解について，複数の考え方があることを理解する。  ・百年戦争という名称の成立やジャンヌ＝ダルク頭	・ワークシート2の資料A～Eを1分ごとに回し読みさせる。その際，自分の記述と大きく異なる部分に付箋をつけさせる。  <ワークシート2> <ワークシート1 step3>  <ワークシート1 step4>	

	<p>理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「百年戦争」の意義の考察</li> </ul>	<p>彰が19世紀のナショナリズム高揚という時代背景に基づくものである点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで意見交換を行い、それを踏まえて、自分なりの仮の視点を立て、「百年戦争」に代わる新たな名称案を考える。</li> </ul>	<p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたは、どのような視点から、どう名付けますか？」</li> </ul> <p>参考事例を提示し、思考を活性化させる。</p> <p>&lt;ワークシート1 step5 &gt;</p>	<p>【知識・理解】 (新名称の作成)</p>
<p>展開2 (20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> <li>・課題提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立てた視点により、資料から取り上げるべき語句が異なることを意識する。</li> <li>・資料(『欧州共通教科書』)を読み、日本の教科書との記述の違いを比較する。自分の考えた名称を説明するのにふさわしい語句を資料から選び出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が考案した仮の名称を班内で発表させ、その名称を付けた理由を説明させる。</li> <li>・ヨーロッパでの歴史叙述を紹介する。</li> </ul> <p>&lt;ワークシート1 step6 &gt;</p> <p>&lt;参考資料&gt;</p>	

(4) 本時の評価基準

・新名称の作成の評価基準 【知識・理解】

「自分の視点と読み取りを基に、百年戦争の特色を理解している」

「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例
・自分の視点と読み取りを基に、百年戦争の特色を理解し、それに代わる名称を考案できている。
「十分満足できる」状況(A)と評価される例
・自分の視点と読み取りを基に、百年戦争の特色を的確に深く理解し、その理解に即した適切な名称を考案できている。
「努力を要する」状況(C)と評価される生徒の例と教師の指導
・自分の視点と読み取りを基に、百年戦争の特色を理解できていない。 次時で個別に助言する。

## 9 生徒が見方・考え方を働かせた場面 (ワークシート 1 step5, 6を参照)

### (1) 指導計画 第二次 1時間目

自分なりの仮の視点を立て、「百年戦争」に代わる新たな名称案を考える。

ア 期待される生徒の変容 百年戦争を、単なる英仏間の対立として見ることから脱却する。

イ 実践における生徒の解答例

(ア) 戦争の結果、イングランドとフランスが分離したことに着目した例

・イングランド誕生 ・英仏両断戦争 ・英仏分離戦争 ・英仏二重帝国の解体

(イ) 王権の強化に着目した例

・戦いの中で形成された「国家」 ・(英仏) 中央集権化戦争  
・王権強化戦争 ・フランス国内戦争

(ウ) イングランド王家とフランス王家以外の諸侯の動向に着目した例

・ブルゴーニュ盛衰戦争

### (2) 指導計画 第二次 2時間目

資料(『欧州共通教科書』)を基に、百年戦争に代わる新名称に対応したまとめ図を作成する。

ア 評価にあたってのポイント

・上記の新名称に対応したまとめであること(自分が設定した視点に基づいて、資料から必要な語句を抽出し、関連付けることができていること)。

イ 実践における解答例(発表資料にて)

## 10 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

生徒に百年戦争を、単なる英仏王権の王位継承争いという視点ではなく、中世から近世に移行する際の中央集権化の視点から考察させることができた。これは、ヨーロッパ中世の単元のまとめとしても有意義であった。

イギリスとフランス、さらにはベネルクス三国が、最初から個別の国家として発展したのではなく、相互に関連を持ち、百年戦争「後」に現在のような別個の国として発展したという視点に注目させることができた。これにより、近世から近代で扱う主権国家や国民国家、ナショナリズムについて考察する際の大きな手がかりを生徒に示すことができた。

### (2) 課題

今回の実践では、生徒の多くは国王権の拡大や中央集権化には着目できたものの、一方で皇帝権や教皇権といった、中世の普遍的な権威が衰退した点に着目できた生徒は少なかった。より広い視野から生徒に考察させる働きかけが必要であった。

新学習指導要領における世界史探究や歴史総合に本実践の成果を反映させるに当たっては、主権国家・国民国家の概念と形成に当たっての歴史的経緯をどれだけ端的に生徒へ提示できるかが課題である。大きな時代の変化を読み取らせるための資料の検討と精選が今後の課題である。

## 11 参考文献

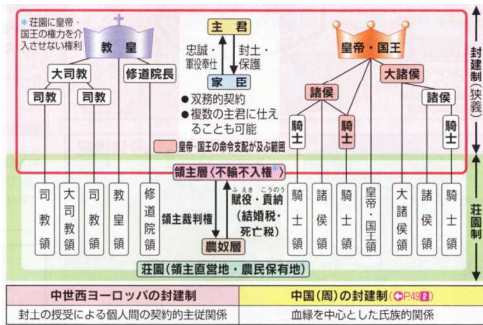
- ・『百年戦争－中世末期の英仏関係－』城戸毅 刀水書房 2010
- ・『英仏百年戦争』佐藤賢一 集英社新書 2003

# 1 ワークシート1 百年戦争と14~15世紀の英仏

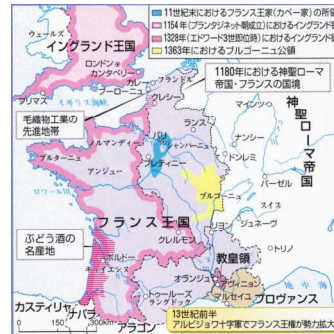
※授業順は、ワークシート (WS) 1 step1→WS 2→WS 1 step 2 ~ 5 (3)→参考資料→WS step 6  
**step 1 封建的主従関係と中世社会の流れを確認**

問 図A Bで国王が直接、農奴に賦役・貢納を納めさせることができた範囲に○印をつけなさい。(図Bはフランス王が賦役・貢納を得た範囲)

図A <封建的主従関係>



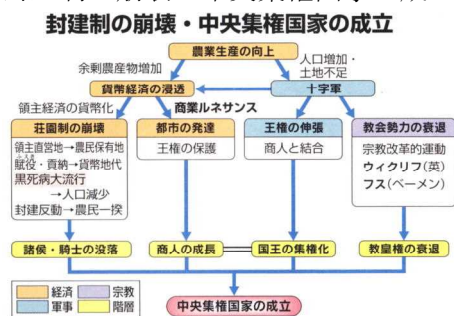
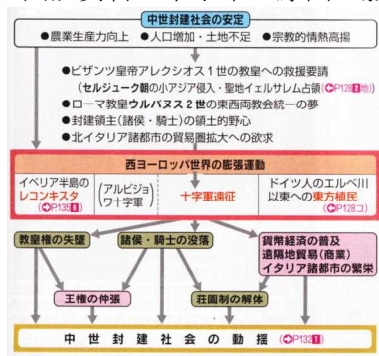
図B <14~15世紀の西ヨーロッパ>



荘園の不輸不入権・領主裁判権を復習し、中世封建制の特色を確認させる。

フランス王の勢力拡大と、百年戦争前期における主な諸侯領を確認させる。

参考：図説資料<十字軍の原因と影響> <封建制の崩壊・中央集権国家の成立>



十字軍以降の中世後半から近世への流れが、中央集権国家の成立にあることを確認させ、その事例の一つが百年戦争であることを認識させる。

## step 2 資料読解 →P. 4 ワークシート 2

## step 3 資料を比較

- (1)資料A~Eの内容を代表者が発表
- (2)各グループで資料A~Eをまとめた図を見比べて、違いを確認しよう。  
→気づいた点にはアンダーライン等の印をつけておく
- (3)資料A~Eの書き方(書いた人の狙いや視点)にはどのような違いがあるだろうか?

## step 4 百年戦争って何だ?→「百年戦争」でいいのか?

- Q 1 そもそも「百年戦争」とはいつ名付けられたのか?  
 A 1 「百年戦争」の語は19世紀に初めて用いられる。それまでは特別な名称はないと思われる。
- Q 2 百年戦争での有名人といたら、エドワード黒太子とジャンヌ=ダルク?  
 A 2 ジャンヌ=ダルクを現在のように評価したのは、ナポレオン1世。  
 エドワード黒太子がイギリス(イングランド)で有名になったのも19世紀。

Q3 イングランドとフランスはいつ分かれた？

A3 1822年のアミアンの和約で破棄するまで、イングランド国王はフランス王を名乗っていた。



☆19Cとは・・・ ナショナリズムが高揚＝イギリス・フランスという「国民国家」の存在が大前提に

### step 5 百年戦争に別の名前をつけるとしたら・・・？

(1) 戦争の名称の命名パターン

- |   |               |  |
|---|---------------|--|
| ア | 交戦した国名をもとにつける | ex. 普仏戦争・ペルシア戦争・ポエニ戦争など                  |
| イ | 戦争の期間や規模に由来   | ex. 三十年戦争・七年戦争・第一次世界大戦                   |
| ウ | 戦争の争点や主な戦場に由来 | ex. アメリカ独立戦争・イタリア統一戦争・オーストリア継承戦争・アヘン戦争など |

(2) どんな視点から「百年戦争」を見るか？の考え方のヒント

----- 参考 百年戦争で、イングランドとフランスはどのように変化していったのか？ -----  
「現代の歴史学では、百年戦争という表現はかならずしも歓迎されていない。その理由の一つにはこの表現が中世末期の王家の争い、王朝的な争点を強調することになり、この戦争をあたかも王位継承戦争であるかのように見せかけることになり、この戦争の真の性質を誤解させることになるからである。」  
「(英仏) 両者はそれぞれ、ほとんど完成された国であるようにみえながら、繋がっており、完全に別個の国にはなっていないのである。さらにそれは、一方が他方を支配しているとか、一方が他方に侵入している、とかいった関係とは違う。両者は繋がっており、もつれあい絡みあっていたのである。これをいわば一刀両断に切り離す、外科的大手術の働きをしたのが百年戦争だった」(『百年戦争』城戸毅(元名市大の教授))

#### ①18世紀以前の人なら、「この戦争」をどう記述するか？

- ・ヘンリ4世以前のイングランド王には「イングランド人」意識はなく、フランス語やフランス文化が重視されていた。フランス語を話せない最初のイングランド王がヘンリ5世と言われる。英語しか話さないヘンリ5世はイングランド人として即位した最初のイングランド王とも言える。
  - ・チョーサーが『カンタベリー物語』を英語で著し、イギリスにおけるルネサンスの先駆となったのがヘンリ4世時代。
- ヘンリ4世までは「フランス王」を主張する権利がある？  
ヘンリ5世がフランス王を主張するのは、先祖伝来の領土奪還ではなく、外国侵略？

#### ②イングランドから見ると ～シェークスピア史観

- ・シェークスピアは16C末、エリザベス1世のもとイングランドの国力が向上した時代に多くの作品を発表
  - ・シェークスピアは『ヘンリ5世』で、ヘンリ5世をイングランド史上最高の名君と讃える
- イギリスでは現在も「アザンクールの戦いに勝利した後、トロワの和約でヘンリー5世がフランス王シャルル6世の娘と結婚し、まもなく戦争はイングランドの勝利で終結した」と信じる人もいる  
(ロビン・ネイランズ『百年戦争』1890・「シェークスピア症候群」)
- この場合、バラ戦争の影響で、ヘンリー6世が大陸の領土を失ったことになる

#### ③ヨーロッパの人々はどう捉えているか ex. 「ヨーロッパ連合」の視点から見ると？

#### ④国家ではなく、民衆の視点から見ると

- ・なぜ、ジャンヌ=ダルクの「フランスを救え」は人々の共感を得たのか？

#### ⑤「中世」や「近世」といった時代区分を意識すると

- ・14～15世紀は「中世」の終わり。「近世」のキーワードは中央集権化(絶対王政) →具体的な変化は？
- ①～⑤の視点をもとに、自分なりに考えるために、参考資料『欧州共通教科書』を見てみよう

(ワークシート1裏面・原寸はA3サイズ)

(3)(1)の命名パターン「ウ」を参考に、「百年戦争(とその時代)」に新しい名前をつけるとしたら…?

・参考にした視点 \_\_\_\_\_ ( ) ←(2)の①～⑤  
その他の場合は( )に視点を記入

・新しい名前 ( ) ※「〇〇戦争」でなくてもよい

・命名の理由 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

### step 6 学んだことのまとめ

課題 ヨーロッパの歴史教科書を読んで、自分がつけた名称を基に、その内容をメモリーツリー形式でまとめなさい。

(まとめ図) ※キーワードは最低15個以上用いること (原寸はA4サイズの3/4程度)

- (1) step 5 (3)とこの(まとめ図)、および下記(振り返り)(2)(3)で期待される生徒の変容例
- ・百年戦争を、単なる英仏間の対立として見ることから脱却する。  
(「主権国家」「近代国家」の前提から離れた視点で、歴史事象を捉えることができる。)
  - 例1: 教皇・神聖ローマ皇帝や近隣諸国の動向を踏まえ、全ヨーロッパ的な視点で捉える。
  - 例2: 「絶対王政」的な統一国家の対立ではなく、諸侯間の対立に着目できる。  
ex. 現在のルクセンブルクの祖となるブルゴーニュ公の盛衰
  - 例3: ペスト・ジャックリーの乱に加え、教皇権や皇帝権の衰退、騎士諸侯の没落などを踏まえて、中世後期の変動を百年戦争の中に見いだすことができる。
  - ・百年戦争の「結果」として、近世的なイングランド・フランスが誕生したことに気付く。
- (2) 評価にあたって、ポイントとなると思われる点 [獲得した力の「見える化」・自己評価]
- ・ step 5 (3)の新名称が、上記の「期待される生徒の変容」に即していること。
  - ・ 新名称と(まとめ図)の内容が、相関関係にあること。  
(生徒の理解が不十分だと、両者が遊離した内容となる)
  - ・ 下記(振り返り)で、他者の意見を尊重し、評価しつつ、自分の思考をより深めている。  
また、学習前と学習後での自分の認識の変化を、具体的に表現できている。

(振り返り)

(1) step 5 (3)や6に取り組んだ際に意識した点や工夫した点は何ですか?(箇条書きで可)  
(2) 他の方のネーミングやまとめ図の発表を聞いて(見て)、よいと思った点や気付いたことを書いて下さい(箇条書きで可)。

[他の生徒がつけた名称や、まとめ方を見て、自分の視点を客観化させる]

(3) 自分のワークシート2(事前にしたまとめ図)と左のstep 6を比較して、自分が新たに学んだ点や気付いた点を書いて下さい(箇条書きで可)。

## 2 ワークシート2 百年戦争の記述比較

(生徒には5人1班へ資料A～Eの5種類のプリントを配付)

次の資料文を読んで、内容をメモリーツリー形式（普通の授業のまとめファイルで書いている形式）でまとめなさい。

- <注意事項>
- ・資料の太字とアンダーライン部の語句を必ず用いること。
  - ・図説（p. 148～151）と用語集（p. 105ほか）は参考にしてもよいが、教科書・その他資料（インターネット等）は参考にしないこと。
  - ・資料はA～Eまで5種類ありますが、異なる資料は見ないこと。
  - ・まとめる際は、「百年戦争の原因・展開・結果」と「英仏への影響」が分かるように書くとよい。

### 資料A

フランス国王は毛織物産地として重要な**フランドル地方**を直接支配下におこうとしたが、この地方に羊毛を輸出して利益をあげていたイギリス国王は、フランスがこの地方に勢力をのぼすのを阻止しようとした。**カペー朝**が漸絶して**ヴァロワ朝**がたつと、イギリス国王**エドワード3世**は、母がカペー家出身であることから**フランス王位継承権**を主張し、これをきっかけに両国のあいだに**百年戦争**が始まった。

はじめ**長弓兵**を駆使したイギリス軍が、**クレシーの戦い**でフランス騎士軍を破るなど優勢で、**エドワード黒太子**の活躍によりフランス南西部を奪った。フランス国内はさらに**黒死病**の流行やジャックリーの乱などで荒廃し、**シャルル7世**のときには王国は崩壊寸前の危機にあった。このとき、国を救えとの神の託宣を信じた農民の娘**ジャンヌ=ダルク**があらわれてフランス軍を率い、**オルレアン**の包囲を破ってイギリス軍を大敗させた。これよりフランスは勢いをもちかえし、ついに**カレー**を除く**全国土**からイギリス軍を追い出して、戦争は**フランスの勝利**に終わった。この長期の戦争のためフランスでは**諸侯・騎士**が没落した。その一方で**シャルル7世**は**大商人**と結んで**財政**をたて直し、**常備軍**を設置したので、以後、**中央集権化**が急速に進展した。

一方、戦後のイギリスでは**ランカスター・ヨーク両家**による**王位継承の内乱**がおこった。これを**バラ戦争**という①。イギリスの**諸侯・騎士**は両派にわかれて激しくたたかったが、その結果、彼らは没落した。結局内乱をおさめたランカスター派の**ヘンリ**が1485年に即位し（**ヘンリ7世**）、**テューダー朝**を開いた。彼は統治制度をととのえ②**王権**に反抗するものを処罰して**絶対王政**に道を開いた。他方、ケルト系の隣国**ウェールズ**は1536年にイギリスに**併合**されたが、**アイルランド**と**スコットランド**はなお独立を保ち続けた。

①両派の記章がそれぞれ赤バラと白バラであったとする後世の想像から、こう呼ばれる。

②ヘンリ7世の後を継いだ国王ヘンリ8世の治世には、17世紀半ばのイギリス革命で**王権乱用**の象徴として廃止されることになる**星室庁裁判所**も整備された。星室庁裁判所という名前は、裁判がウェストミンスター宮殿の「星の間」でおこなわれたのに由来するとされる。

## 資料B

14世紀にはいると、**プランタジネット朝**のイングランドと**ヴァロワ朝**フランスとの関係が、イングランドの在仏所領をめぐる緊張が緊迫した。両国の武力衝突は、イングランド王**エドワード3世**の**フランス王即位宣言**（1340年）とともに本格化し、戦闘と休戦をくりかえしながら、100年以上にわたり決着をみなかった（**百年戦争**）。当初は**クレシーの戦い**で歩兵長弓隊がフランス騎士軍に勝利するなどイングランド軍が優勢であったが、1429年に**ジャンヌ=ダルク**が**オルレアン**の包囲をといて**シャルル7世**の**国王戴冠**（ランス）を実現すると、フランスの優位に転じた。戦争は、教皇・公会議による和平調停のかいもなく長期化し、両国の財政を著しく疲弊させたあげく、ようやく1453年、イングランド軍の全面撤退（**カレー**をのぞく）によって終結した。

その後、イングランドは長い内乱の時代（**バラ戦争**①）に突入し、国内では、貨幣地代の普及により農民層が分解し、のちに**ジェントリ**と呼ばれる中小領主層や、**独立自営農民**（**ヨーマン**）層が新たに形成された。一方、ようやくイングランドを国土から排除したフランスでは、ヴァロワ朝のもとで中央集権化が進められた。

①**ランカスター家**と**ヨーク家**の対立を軸とした**王位継承戦争**。1485年の**ヘンリ7世**（在位1485～1509）の即位（**テューダー朝**（1485～1603）の創始）によって終結した。戦争の名称は、両家の記章を赤バラと白バラとする伝承に基づき、19世紀にうまれたものである。

## 資料C

フランスのカペー朝がたえて傍系の**ヴァロワ朝**が跡をつぐと、イングランド王エドワード3世が**フランス王位の継承権**を主張してフランスに侵攻した。これが**百年戦争**のはじまりである。この背景には、毛織物生産のさかんな**フランドル地方**や**ワイン**の産地である**ギューイェヌ地方**をめぐる両国の利害の対立があった。

戦局ははじめ、フランスの有力諸侯である**ブルゴーニュ公国**と同盟をむすんだイングランドが優勢であった。**黒死病**の流行や**ジャックリーの乱**で疲弊したフランスは、**シャルル7世**が即位したころには降伏寸前にまで追い込まれていたが、神のお告げを受けたと信じる農民の娘**ジャンヌ=ダルク**があらわれ、フランス軍の先頭にたつて**オルレアン**の包囲をやぶると、戦局は逆転した。1453年、フランスは**カレー**市をのぞく**全領土**を回復して、戦争は終結した。

百年戦争の結果、フランスでは諸侯や騎士が没落し、シャルル7世は**官僚制**、**常備軍**、**租税制度**を整備することで**王権の強化**をはかった。一方イングランドでは、百年戦争ののち、王位継承をめぐる**ランカスター家**と**ヨーク家**がそれぞれに諸侯や騎士を従えて争う**バラ戦争**がおこった。これをおさめたランカスター派の**ヘンリ7世**は**テューダー朝**をひらき、ウェストミンスター宮殿に**星室庁裁判所**を設けて貴族層の王権への抵抗をおさえた。こうしてイングランドとフランスは、領土をほぼ確定して**中央集権体制**をすすめることで、近世の主権国家へと移行した。

※ジャンヌ=ダルク～預言者として理解されたジャンヌは、オルレアンを解放したのち、イングランド側にとらえられ、女性にもかかわらず**男性の服装をした**ことを理由の一つとされ、異端として火刑に処された。しかし処刑直後から復権を求める声上がり、1456年に復権裁判がなされた。1920年に教皇により聖人に加えられている。



## 資料D

フランスの**カペー朝**が絶えて傍系の**ヴァロワ朝**があとをつぐと、**イングランド王エドワード3世**はフランス王位の**継承権**を主張してフランスに侵攻し、のちに**百年戦争**とよばれる断続的な戦争がはじまった。背景には、**自国産羊毛の輸出先フランドル**へフランスが進出することをきらう**イングランド**の思惑や、**大陸内のプランタジネット家領地**をめぐる英仏両王家の対立があった。

はじめは**イングランド**が優勢で、15世紀に入ると、フランス国内は、**イングランド**と結んだ**ブルゴーニュ公派**とフランス国王派との**内戦**のような状態となった。ところが、神のお告げを受けたと信じる農民の娘**ジャンヌ=ダルク**が出現し、**オルレアン**の解放を機に、**シャルル7世**が反攻に転じると、フランスは**カレー市**を除く**全領土を確保**して、戦争は終わった。

フランスでは**諸侯・貴族**の力が後退し、**王権**が伸張した。**イングランド**では百年戦争後、**ランカスター家**と**ヨーク家**とが**王位**を争い、貴族が両派に分裂して**バラ戦争**①とよばれる内戦となったが、ランカスター派の**ヘンリ7世**が収集して**テューダー朝**を開いた。テューダー朝は**星室庁裁判所**②を設けて反抗をおさえ、**王権強化**への道を開いた。

※ジャンヌ=ダルク～ジャンヌは最後には**異端**の罪で**火刑**に処せられた。「救国の少女」として称賛されるようになるのは、19世紀末にフランス・ナショナリズムが高揚するなかでのことで、1920年には**聖女**として列せられた。

①ランカスター派を赤いバラ、ヨーク派を白いバラになぞらえることで、19世紀に広まった呼称である。

②国王に直属する特別裁判所。ウェストミンスター宮殿の星の間に設置された。

イングランドとフランスの間で起こった戦争は長期に及び、多くの諸侯が没落し、王権力が力を増していった。

1328年フランスではカペー朝が断絶し、ヴァロワ朝のフィリップ6世が王位を継承した。①1337年フィリップ6世がギューエンヌ地方②の没収を宣言すると、イングランド王エドワード3世は母親がカペー家出身であることからフランス王位継承権を主張し、百年戦争が始まった。③イングランド側はクレシーの戦いやポワティエの戦いで勝利し④終始優勢であった。戦場となったフランスは荒廃し、さらにペスト（黒死病）の流行や農民一揆がそれに追い打ちをかけた。しかし1429年イングランド軍に包囲されたオルレアンがジャンヌ=ダルク⑤の活躍で解放されると、フランス王シャルル7世は攻勢に転じ、1453年にはギューエンヌ地方の中心都市ボルドーを奪回して百年戦争を終結させた。イングランドはカレーを残して大陸の所領を失った。フランスでは長期間にわたる戦争で多くの諸侯が没落し、都市の大商人と手を結んだ王権が急速に力をつけた。

百年戦争で戦場とならなかったイングランドでも、その後、王位継承をめぐるランカスター家とヨーク家の間でばら戦争とよばれる内乱が起こり、有力な諸侯が次々と没落していった。1485年に内乱をおさめてテューダー朝を開いたヘンリ7世は、王権に対する反抗を抑えるため、星室庁を整備した。

#### ①イングランド・フランス王家（家系図解説）

～封建社会では女性にも所領の相続権が認められており、相続権をもつ女性との結婚は所領を拡大するための重要な手段であった。そのため、王家や諸侯の間では複雑な婚姻関係が結ばれ、それがしばしば王位や公・伯位をめぐる継承戦争に発展した。

②ギューエンヌ地方～ガロンヌ川下流域のボルドーを中心とする地域で、プランタジネット朝のヘンリ2世以来イングランド王が領有していた。赤ワインの一大産地で、ワインを産出しないイングランドと経済的にも密接な関係をもっていた。

③百年戦争（地図解説）～フランドル伯でもあったブルゴーニュ公はイングランドと同盟関係にあったが、1435年にシャルル7世と和解した。これにより、イングランドとの同盟は解消された。

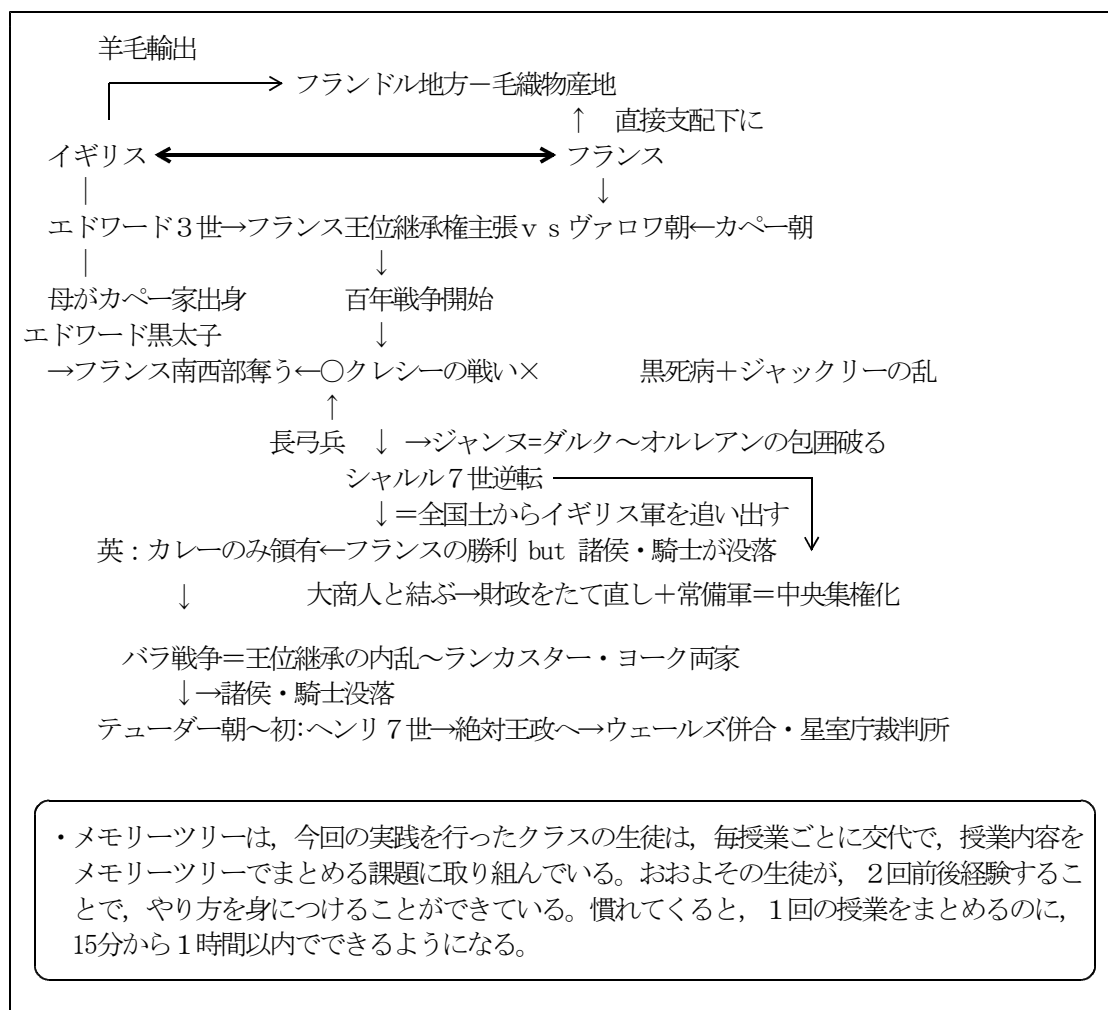
④ポワティエの戦い～黒太子エドワード（エドワード3世の長子）が指揮するイングランド軍はたくみな戦術で勝利し、フランス王ジャン2世を捕虜とした。

⑤ジャンヌ=ダルク裁判～ジャンヌ=ダルクはイングランド側にとらえられ、異端として火刑に処せられた。聖職階層制を無視して彼女が聞いたという神の声にのみ従おうとしたことや、男装したことが異端の理由とされたが、1920年に聖人に列せられた。

※資料A～Eの出典は、最後の「5 参考資料」の欄に記載

### 3 ワークシート2右半面 (予想される解答例の一例)

資料 A (A~E) サブタイトル イングランドとフランスの中央集権化への道



・メモリーツリーは、今回の実践を行ったクラスの生徒は、毎授業ごとに交代で、授業内容をメモリーツリーでまとめる課題に取り組んでいる。おおよその生徒が、2回前後経験することで、やり方を身につけることができている。慣れてくると、1回の授業をまとめるのに、15分から1時間以内でできるようになる。

まとめをする際に心がけた点・工夫した点は・・・  
 [歴史事象をまとめ、要点と関連性が他人に伝わるよう表現する際に留意する点を意識させる。]

まとめてみて疑問に思った点・もっと知りたい点などがあれば・・・  
 [疑問点等を出すことで、自分なりの単元に対する問いを立てさせる。]  
 (予想される疑問例) ・なぜ、百年間も戦争状態が続いたのか?  
 ・エドワード3世にフランス王位を主張する資格があったのか?  
 ・英仏以外の他国や、諸侯はこの戦争にどう関わったのか?  
 ・なぜ、カレー市のみが最後までイングランド領であったのか?  
 ・ジャンヌ=ダルクの果たした役割は?なぜ、処刑されたのか?

#### 4 ワークシート 1 step5・6参考資料

※実際の実践では、「6 参考資料」を基に、百年戦争の略年表と人物紹介の補足紹介資料も用いて下記の資料を理解する学習活動の手助けとした。

※また、『欧州共通教科書』には下記以外に、身分制や社会制度、都市や農民に関する記述があり、生徒のたてた視点に応じて、適宜、個別に紹介した。

※「ジャンヌ=ダルク」「ジャンヌ・ダルク」の表記は、参考資料の表記に準じており、統一していない。

#### <『欧州共通教科書』の百年戦争の記述（第5章危機とルネサンス 3政治と行政 より）>

##### 1 ヨーロッパの領土の変遷（本文の一部）

西ヨーロッパにおける国民国家成立の歴史において、最も重要な役割を果たしたのは、この頃のフランスとイギリスとの関係である。両国の政治・経済活動は、百年戦争（1337-1453）によって大きく左右された。「百年戦争」は、実際には短期間の戦争と長い休戦期間が繰り返されたのだが、この史上初のヨーロッパ規模の紛争は英仏両国のほかにも、アラゴン、カスティリヤ、アンジュー、ブルゴーニュ、スコットランドを巻き込んだ。この紛争の起因は、純粋に封建的問題であった。ノルマンディー公ウィリアム征服王の子孫である歴代イングランド王は、ノルマンディーに所有する領地からすると、相変わらずフランス王の封臣の地位にとどまることになる。しかし1066年以来、婚姻による同盟を重ねながら、イングランド諸王は大陸におけるイングランドの所領（アンジュー、ギューイエンヌ）を着々と増やしていったが、フランス王に対する臣従の義務を更新せずすませようと苦勞を続けていた。こうしてフランス王フィリップ6世（在位1328-50）が英領ギューイエンヌを奪回したのを契機に、戦争が始まった。この百年戦争の末期（1429年）には、ジャンヌ・ダルクが出現し、フランスの愛国心を目覚めさせた。

この頃ライン川とロース川の間、新しい政治実体としてブルゴーニュが形成された。フランス王ジャン2世善良王（在位1350-64）は、親族封として次男のフィリップ有胆公にブルゴーニュ公領を授封した。英仏間の紛争のさなか、ジャン2世の長男で後継者のシャルル5世（在位1364-80）はフランドルを支配下に治めようと心をくだいて、弟のフィリップ有胆公と、フランドル相続人で女伯のマルグリット・ド・マールとの結婚を実現させた。この結婚が後のブルゴーニュ公国の基礎を築いた。1400年頃からブルゴーニュ公は結婚や相続により（フランシュ・コンテ、フランドル、アラス、ブラバント、リンブルフ、ホラント、ゼーラント、エノー）、もしくは購買により（ナミュール伯領、ルクセンブルク公領）、多くの所領を獲得した。ブルゴーニュ公はこれらの領地だけではあきたらず、それにリエージュ、カンブレー、ユトレヒトの各司教領を加えたいと望んだ。こうしてフィリップ有胆公の夢は実現されることになる。しかし、有胆公の孫フィリップ善良公の息子シャルル突進公（豪胆公）のさらなる野心に対し、フランス王ルイ11世はこれをあくまでも阻止しようとして戦端を開いた。1477年、ナンシーの戦いで、シャルルは討ち死にし、歴代のブルゴーニュ公の夢はついに果たされなかった。

##### 2 百年戦争（解説）

フランス人は、女系の王位継承権を認めなかった。そのためにフランス王家から嫁いだイザベラの息子、イギリス王エドワード3世は、カペー王位への権利をことごとく否認された。エドワードのフランス王位継承権の主張から始まった百年戦争だが、スリュイス沖の艦隊全滅（1340年）、ボワティエでのフランス王捕虜（1356年）…と、緒戦はフランス側の惨敗だった。敵対する両国は疲れ切り、1360年やむなく和睦した。その結果、カレーも含めてフランス南西部のすべてがイギリスに委譲され、平和が35年ほど続いた。しかし、アルマニャック派とブルゴーニュ派の抗争により再び戦端が開かれた。アザンクールのフランス軍敗北（1415）、フランス王の発狂、王妃の裏切りなどがあり、1420年トロワの和約が結ばれ、フランスはイギリス人の手にゆだねられた。その後、ジャンヌ・ダルクの奇跡的な働き（1429-31）に励まされ、フランス王太子と軍隊は自信を取り戻した。ランスで即位した王太子はシャルル7世となって内戦を終結させ、軍隊を再編し、1429年から1453年までにフランスからイギリス軍を一掃した。

### 3 封建国家から近代国家へ（本文）

このようにして、14・15世紀のヨーロッパは、政治地理上の大変革を経験した。この領域的変動により、新しい国家運営機構が生まれ、12・13世紀の封建体制に由来する諸制度は新しい統治形態に取って代わられた。

古い形態と新しい形態が重なり合うため、ある一線で時代を区分するのは難しい。つまり、行政は封建的慣習とリスクを伴う忠誠によって行われるが、これは個人と個人の排他的な1対1の結びつきを前提としている。封臣と封主は下から上に階層ピラミッドを構成し、頂点に王が君臨する。国家を制度として成り立たせていたのは、こうした相互に結びついた複雑な小権力の網の目だった。この構造が変化し始め、君主の利害は貴族の個々の利害と一致しなくなり、全国民の利害と重なるようになった。

こうしてローマ法にとって不可欠な「公益」という観念が再浮上し、君主はその家臣の利害について連帯責任を負うことになった。家臣はもはや、封建的階層制の中に場所を割り当てられた個人ではない。彼らは今後はある集団の、当時「身分」と呼ばれた社会階層の一員となった。

こうした身分ごとの分類の中で、新しい集団、都市の（富裕な）市民層の存在が明確になった。これ以後、人々は聖職者と貴族と市民の三つの身分に別れたが、大多数を占める都市と農村の下層民大衆は、この3身分のいずれにも属さなかった。

これらの身分を代表する議会、すなわち身分制議会は単に君主の意思を聞くだけにとどまらず、自分たちの存在を認めさせた。このため君主は、租税引き上げにはこの議会の承認を必要とした。権力はもはや一方的に行使されるものではなく、君主は、特許状によってその権限が規定される3身分と、権力を共有するようになった。

しかし、この身分制議会は、政治的代表を担ったり、統治行為を実践する、といった目的までは持っていなかった。彼らの役割は、君主の権力増大を抑えるため、自分たちに認められた特権を守るということに尽きた。

この新しい行政機構は、国によって多少の相違があるものの、ヨーロッパで一般化した。個人間のつながりから集団的連帯への移行は、ときとして、のちに国民意識と呼ばれる感情を生み出すことになる。

しかしこの「国民意識」は、イギリスの顕著な例を除いて、一国の文化的結集力が生み出す価値に基づくものではなかった。フランス王国の住民は、自らをフランス人というより、フランス国王の臣下であると意識していた。この当時、「ナショナリズム」と見なされる感情は、他国の攻撃に対して抵抗しうる一集団の結束意識の中に現れるものだった。（中略）

他方、ヨーロッパに、政治的・地理的に境界を限定された国々が形成されたことで、教皇やときに皇帝を後ろ盾にして結ばれたキリスト教世界の終焉が決定的となった。

国家の役割が拡大するにつれ、君主は直属の役人を周辺に集めるようになった。これらの役人は多くが小貴族や市民層の出身で、国政のあらゆるレベルに関与した。例えばフランスでは、「バイイ」と呼ばれる行政官が国王の名において、司法・行政などの公務を引き受けた。王宮にはこの他に、大学を卒業した法学者や経済人が参集した。

これらの国政業務の増加と有能な役人の登用は、王政の影響力を伸張させることになり、王宮の役人は自らが、国王個人より王国そのものに結びついているのだと考え始めた。その上、常備軍隊の創設により中央権力が強化され、富裕な商人は国王に貸付金を提供し、傭兵の給与に充てさせた。

14・15世紀の間、国家はある一定の過程を踏んで発展する、という経過をたどることができず、百年戦争のような困難な時期が発展にブレーキをかけた。王権の強化が実現されるには、戦争の終結を待たなければならない。フランスでは、ルイ11世（在位1461-83）とその後継者が、近代国家を形成することに成功することになる。イギリスでは、ヨーク、ランカスター両家が王位を争った「ばら戦争」で貴族が疲弊したのにつけ込み、テューダー朝のヘンリー7世（在位1485-1509）が王権を強化することになる。

英仏両国と同じく封建国家から近代国家への移行が試みられながら、ブルゴーニュ公国の場合は違っていた。ブルゴーニュ公国は、同じ君主の下で自治権を認められた複数の主権国からなる連合体で、秩序だった行政府が整備されていた。権限強化に努める歴代ブルゴーニュ公は、貴族層から選んだ代理人たちにそれぞれの領地をゆだね、彼らを補佐する機関として評定院と身分制議会を設置した。自らの所領をより良く組織化するべく、ブルゴーニュ公は大法官府、大評定院（最高裁判所に相当する政府機関）、財務管理を統括する会計法院を設立し、さらに「三部会」に3身分（貴族、聖職者、市民層）の代表者を招集した。

シャルル突進公は、1477年フランス王ルイ11世に敗れ、ブルゴーニュの夢はついでさるが、ここに実現された諸機構は、のちにヨーロッパ各国に影響を及ぼすことになる。

## 5 参考資料

### 5-1 ワークシートに引用したもの

- ・『ヨーロッパの歴史 欧州共通教科書 第2版』  
フレデリック=ドルーシュ総合編集・木村尚三郎監修・花上克己訳  
東京書籍 1998  
4「ワークシート1 step5・6参考資料」に使用。現在は中古本のみ入手可。  
ヨーロッパの12カ国14名の歴史家が執筆したもので、世界28カ国語に翻訳されている。内容は先史時代より現代までのヨーロッパ史を広く扱っており、図版・史料が豊富なため、ヨーロッパ史全般に参考となる。ただし、ヨーロッパの教育機関での採択状況などは不明。
- ・『百年戦争－中世末期の英仏関係－』城戸毅 刀水書房 2010  
(ワークシート1 step5 ほか)
- ・『詳説 世界史B』山川出版社 (ワークシート2 資料A)
- ・『新世界史B』山川出版社 (ワークシート2 資料B)
- ・『世界史B 新訂版』実教出版 (ワークシート2 資料C)
- ・『世界史B』東京書籍 (ワークシート2 資料D)
- ・『新詳 世界史B』帝国書院 (ワークシート2 資料E)

### 5-2 ワークシート作成にあたり、参考にしたもの

- ・『英仏百年戦争』佐藤賢一 集英社新書 2003
- ・『カペー朝』佐藤賢一 講談社現代新書 2009
- ・『ヴァロワ朝』佐藤賢一 講談社現代新書 2014
- ・『世界史との対話 70時間の歴史批評 (上)』小川幸司 地歴社 2011
- ・『世界の歴史 10 西ヨーロッパ世界の形成』佐藤彰一・池上俊一 中央公論社 1997

### 5-3 メモリーツリーの作成法について

- ・第一学習社 Support Box  
<http://www.daiichi-g.co.jp/chireki/globalwide/box020.html>

### 5-4 映像資料 ※ジャンヌ=ダルクの表記はいずれも、原題(日本語タイトル)にあわせた

- 実際の実践では、一部クラスでは、映像資料を20分ほど用いて、生徒の理解の手がかりとした。現在では入手不能なものや、授業への利用が難しいものもあるが、参考として記載する。
- ・NHK『そのとき歴史が動いた』2003年9月10日放映分  
「ジャンヌ・ダルク 戦いはわが愛の証～裁判記録が明かす聖女の真実」  
コンパクトに百年戦争の概要とジャンヌ=ダルク裁判がまとめられてる。本実践では、この番組の一部を利用したが、現在は入手困難。(DVDなし・NHKオンデマンドやNHKティーチャーズ・ライブラリーにもなし)ただし、コミカライズ化はされている。(『NHK「その時歴史が動いた」コミック版 世界英雄編・ホーム社漫画文庫 2005)
  - ・映画『ヴァージン・ブレイド ジャンヌ・ダルクの真実』カナダ 1999  
上記、『その時歴史が動いた』の再現VTRで使われた、リーリー・ソビエンスキー主演によるカナダのテレビ映画。生徒が抱きやすい「聖なる乙女」「悲劇の少女」のイメージに近いジャンヌ=ダルク像である。日本語吹き替え版はVHSでしか販売されておらず、レンタルビデオ等でしか視聴は難しい。DVDは英語版のみ販売されているが、再生機器によっては視聴できない。
  - ・映画『ジャンヌ・ダルク』フランス・アメリカ合作 1999  
ミラ・ジョボヴィッチ主演、リュック・ベッソン監督の映画。ジャンヌ=ダルクを一人の少女として描いている。DVD・ブルーレイ共に入手可能。ただし、過激な描写が所々にあり、授業で用いるのには配慮が必要。また、描かれているジャンヌ像は、見る者によっては賛否が分かれる。

## 【授業実践開発班：カ 現代社会 単元「消費者問題と消費者主権 ～自立した消費者になるために～」】

### 問いと資料を効果的に活用する授業づくり —「視点を変える問い」と「実物資料」を生かした消費者教育—

#### 1 はじめに

本校は、豊田市の中山間部に位置し、全校生徒 222 名の小規模な学校である。全校生徒のうち約 4 割が、旧足助・旭・稲武などの中山間地域から通っている。

今回、3年生の現代社会で消費者教育を設定した背景として、成年年齢の引き下げがある。成年年齢を 18 歳に引き下げることを内容とする「民法の一部を改正する法律」が 2022 年 4 月 1 日から施行され 18 歳となった高校 3 年生は成人として親の同意なく自らの意思でさまざまな契約が可能となる。その結果、本人の望まない契約を結んでしまいトラブルに巻き込まれてしまうことが予想される。

そこで、本単元の目標を「自立した消費者としての自覚をもち、自ら判断するだけでなく周囲に啓発できるようになる」とした。5 時間の授業の中では、愛知県県民生活課と連携し、悪質商法の事例やエシカル消費などについてさまざまな資料を活用しながら問いかけによって生徒の思考を活性化し、ワークシートで考察させながら授業を進めた。

#### 2 実施する科目 現代社会

#### 3 日時・場所 令和 2 年 10 月 23 日（金） 3 年 C 組教室

#### 4 学級 3 年 C 組（キャリアデザイン類型文系）男子 7 名 女子 11 名 計 18 名

#### 5 単元名 消費者問題と消費者主権 ～「自立した消費者」になるために～

**6 単元の目標** 自立した消費者として活躍し、よりよい社会の有為な形成者となるため、悪質商法やエシカル消費といった現代の消費者問題を学ぶ中で、さまざまな見方・考え方があることを確認する。その上で、自立した消費者とは何か、今後どのように消費者として自覚をもって行動していけばよいかを考察する。

#### 7 単元の指導計画

##### (1) 単元の配当時間（5 時間）

- |                                 |          |
|---------------------------------|----------|
| ・外部講師による、消費者問題や契約、エシカル消費についての講義 | 1 時間     |
| ・悪質商法について、騙す側、騙される側の異なる視点で考える   | 1 時間     |
| ・スゴロクを使って悪質商法の手口などを考察する         | 1 時間（本時） |
| ・エシカル消費を実際の商品を使って体験する           | 1 時間     |
| ・自立した消費者となるために、消費者としての在り方を考える   | 1 時間     |

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
消費者問題に興味をもって取り組み、理解する姿勢をもち追究しようとしている。	悪質商法やエシカル消費について、異なる立場から考察し、自身の考えたことを文章で表現できている。	実際に販売している商品やスゴロクなどの資料から、消費者心理を推測することができる。	悪質商法やエシカル消費から、現代社会における消費者問題や消費者主権について理解し、その知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画（5時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等（評価方法）
第一次	<p>【ねらい】消費者問題について、興味・関心をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による消費者問題や契約、エシカル消費の講義を実施する。</li> <li>講師の授業の中で、ワークシートなどを記入する。</li> </ul>	●			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題に興味と関心を持ち、学ぼうとする意欲が見られる。</li> </ul> <p>（ワークシート）</p>
	<p>【ねらい】悪質商法について、見方・視点を変えて考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>悪質商法を、自分が行うならどうするか？</li> <li>「騙す側」の視点で悪質商法を考える。</li> <li>「どうすれば騙されないか」ではなく、「騙す側の心理」「騙されてしまう消費者の心理」を考えることで悪質商法がどのようなものか考察する。</li> </ul>		●			<ul style="list-style-type: none"> <li>「騙す側の心理」と「騙される側の心理」の視点から、悪質商法の手口を考察することが出来ている。</li> </ul> <p>（ワークシート）</p>
第三次	<p>【ねらい】スゴロクを体験し、悪質商法の手口などを考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スゴロクを活用して、悪質商法に騙されない消費者になるための方法を考える。（外部講師による指導）</li> <li>スゴロクを実際にやってみることで、悪質商法の手口や実際に体験する。</li> </ul>		●	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>スゴロクに取り組む中で、「消費者心理」を考え、悪質商法の手口が実際にどのようなものか体験し、思考を深める。</li> </ul> <p>（レポート・発表）</p>



第四次	【ねらい】 エシカル消費について，商品比較を行い，その違いを考える。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エシカル消費と一般的な消費の違いを考える。また，エシカル消費が進められる背景にどのようなものがあるか考察する。</li> <li>家庭科的な見方や視点を取り入れ，商品の比較をして，どのような違いがあるか考える。</li> </ul>	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間目の授業で習ったことを踏まえて，「エシカル消費」を理解し，商品の違いを考察することが出来ている。 (ワークシート)</li> <li>実際に商品を比較，検討することで，公民的な視点だけでなく，家庭科の視点からも「エシカル消費」を捉えている。 (ワークシート・レポート)</li> </ul>	
第五次	【ねらい】 悪質商法やエシカル消費を通じ，消費者としての在り方を考える。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>悪質商法やエシカル消費などについてまとめ，それを通じて，自分たちが「自立した消費者」としてどのようにあるべきかを考え，発表する。</li> <li>グループで話し合い，その後個人でレポートを書く。</li> </ul>	●	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをまとめ，グループ内で共有し，「自立した消費者としてどのようにあるべきか」という問いを考えることができている。 (ワークシート・レポート)</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査（ペーパーテスト）の実施</li> </ul>				●	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題について，特に悪質商法やエシカル消費，消費者主権について理解している。 (定期考査)</li> </ul>

## 8 本時の学習

(1) 本時の目標 「悪質業者にまけんぞう！スゴロク」を活用し，悪質商法の実際の手口を学ぶ。また，前時に考察した「悪質商法を自分がやるならどうするか」という視点も踏まえ，どのようにしたら悪質商法に騙されない「賢い消費者」となることができるかを考える。

(2) 教材 高等学校 改訂版 新現代社会（第一学習社），ニュービジョン現社（浜島書店）  
愛知県県民生活課の資料，「悪質業者にまけんぞう！スゴロク」，教員作成のワークシート

(3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点 評価方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班への移動を指示。</li> <li>・授業目標の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スゴロクを活用した授業を実施することを確認し班を組む。</li> <li>・この授業の最終目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県県民生活課の講師がリーダーをすることを確認する。</li> </ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悪質業者にまけんぞう！スゴロク」に取り組む。</li> <li>・ワークシートに意見をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーの指示に基づいてスゴロクに参加し、取り組む。</li> <li>・取り組みながら気が付いたことをワークシートに記録する。</li> <li>・スゴロクに取り組んで気が付いたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行い、生徒の取り組み状況を確認する。</li> <li>・気が付いたことを書かせ、文章化してまとめるように指示する。</li> <li>・前時の「悪質商法で騙す側」の視点も取り入れる。</li> <li>・机間指導を行い、発表する生徒を指名する。</li> </ul>	<p>【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
展開 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自でまとめた意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悪質商法に騙されない、賢い消費者になるにはどうすればよいか。また、周囲に伝えるためにはどうすればよいか」ということについて、自分の考えを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意見を誘導しないように気を付ける。</li> <li>・時間を考慮し、発表者は3～4名とする。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

(4) 本時の評価規準

- ・ワークシートの評価規準 【思考・判断・表現】

「悪質商法に騙されない、賢い消費者になるためにはどうすればよいか。また、周囲に伝えていくためにはどうすればよいか」という問いに対し、自分の考えをまとめることができている。

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例
悪質商法に騙されないための自分の考えと、周囲に対して悪質商法の手口を伝えていく方法を、自分自身の言葉でまとめることができている。
「十分満足できる」状況（A）と評価される例
悪質商法に騙されないためにどうすればよいか、ということから発展し、「社会を形成する消費者」としての自覚と、周囲に悪質商法の手口を啓発する方法を考察し、自分なりの考えをまとめることができている。

## 「努力を要する状況（C）と評価される例と教師の指導

悪質商法のことを学んでいくことの必要性を考えることができているが、周囲への啓発をすることまで考えることができていない。

→自らが社会の一員・形成者であるという自覚に気付かせ、周囲への啓発ができるようにするにはどうすればよいか、考えるよう示唆する。

### 9 生徒が見方・考え方を働かせる場面

#### 2時間目

- ・悪質商法の手口について「騙す側の視点」での見方をもつ。
- ・悪質商法の手口について「騙されてしまう消費者の心理」での見方をもつ。

#### 3時間目

- ・悪質商法の手口を再度確認し「悪質商法について啓発していく」という立場で考えを働かせる。

#### 4時間目

- ・現代社会の授業の中で、「商品の比較」という家庭的な見方を取り入れる。
- ・「消費者としての自覚」をもちながら、「その商品を選ぶ（購入する）理由」を考える。

### 10 まとめ

#### (1) 成果

問いについては、2時限目に悪質商法について「騙す側の視点で考えよう」「騙されてしまう側の心理を考えよう」という発問を行った。生徒の反応はよく、アポイントメントセールスやマルチ商法、他にもさまざまな悪質商法について「どうやって騙し、商品を買わせるか」という視点で考察することができた。例として、アポイントメントセールスでは「騙せそうな人を狙って大量の電話やはがきの送付を行う」「懸賞によく応募する人を狙う」などの答えがあった。また、騙されてしまう消費者心理としては「契約するまで帰らせてもらえない状況に追い込まれ、面倒に感じたり不安になって契約してしまう」などの答えが出た。

実物資料の活用については「悪質業者にまけんぞう！スゴロク」に取り組む中で、実際の悪質商法の手口を楽しみながら確認することができた。生徒の反応は非常によく、評価基準A、B、Cのうち、Aが9名、Bが9名、Cは0名という結果となった。

最後のまとめのワークシートでは、「物を買う時は利用規約などの契約内容をしっかり見たり、騙されないように正しい判断をしたい。地球環境に配慮した商品やフェアトレード商品などを選ぶ機会があれば、選択できる判断力をもちたい。周囲にも伝えていきたい」という意見が、複数名の生徒から出ており、今回の授業実践の目標である「自立した消費者としての自覚をもち、自ら判断するだけでなく周囲に啓発できるようになる」ということを達成することができたと考えている。

#### (2) 課題

実物資料は非常によかったが、商品の準備を教員ではなく生徒自身に選ばせるという形でも面白いのではないかと考えられる。また、今回はスマートフォンを活用して調べる形をとったが、さらにタブレットの画面などで共有できると、より深い学びに繋がると考えられる。

### 11 参考文献

消費者庁発行「社会への扉」、愛知県県民生活課発行「消費者トラブルお悩み相談室」  
授業実践開発班カー5－

第3回 スゴロクで悪質商法を考えよう

1 スゴロクをしながら，悪質商法について気付いたことをメモしよう（手口・防ぐ方法・悪質商法の傾向など）。

--

2 悪質商法に騙されない，賢い消費者になるためにはどうしたらよいただろうか。また，悪質商法の手口を周囲に伝えていくためにはどうすればよいただろうか。

他の人の意見（メモ）

3年 C組 番 氏名 \_\_\_\_\_